能登町観光マスタープラン

2018 ▶ 2027

目　次

序章　能登町観光マスタープランの策定について 1

序－１　策定の目的 1

序－２　策定期間 1

序－３　計画の位置づけ 2

第１章　能登町の観光を取り巻く現状 3

１－１　国内観光の動向 3

１－２　県内観光の動向 7

１－３　能登町の観光を取り巻く環境変化 10

第２章　能登町観光の現況 16

２－１　能登町の観光資源の現況 16

２－２　能登町の食・特産品 17

２－４　能登町の観光動向 21

２－５　経済波及効果 33

２－６　能登町の観光課題 34

第３章　観光振興ビジョン 35

３－１　観光振興テーマと策定フロー 35

３－２　観光振興の方針 37

３－３　観光振興ビジョンの目標 38

第４章　観光振興プラン 39

４－１　施策の展開 39

４－２　【方針１】　絆を深める観光交流で将来のまちを支えます 40

４－３　【方針２】　ブランド戦略により“顔”のある観光まちづくりを進めます .. 46

４－４　【方針３】　広域連携により　“のと”の周遊観光促進を強化します 53

４－５　【方針４】　まちに魅力を感じるひとを戦略的に誘致します 58

第５章　推進体制 65

５－１　役割の明確化 65

５－２　町における推進体制 66

序章　能登町観光マスタープランの策定について

序－1　策定の目的

能登町では、平成 19 年 3 月に「能登町観光マスタープラン」を策定し、のと里山空港の開港やインバウンド誘客に対応した様々な観光の取り組みを進めてきており、観光入込客数は平成 19 年の 67 万人から増加し平成 29 年には約 79 万人となっています。

能登地域においては、平成 27 年の北陸新幹線金沢開業やのと里山海道無料化などによって、新たな交流の時代を迎えており、観光交流は人口減少が予想される将来において、まちの活性化を牽引する産業として大きく期待されています。

本能登町観光マスタープランは、前計画について「能登町第二次総合計画」などの上位計画や観光の現状及び動向を踏まえ、今後 10 年の能登町観光戦略プランを策定することを目的とします。

あばれ祭

※大賞受賞「#のっとぐらむ」で素敵な
能登町写真投稿キャンペーン

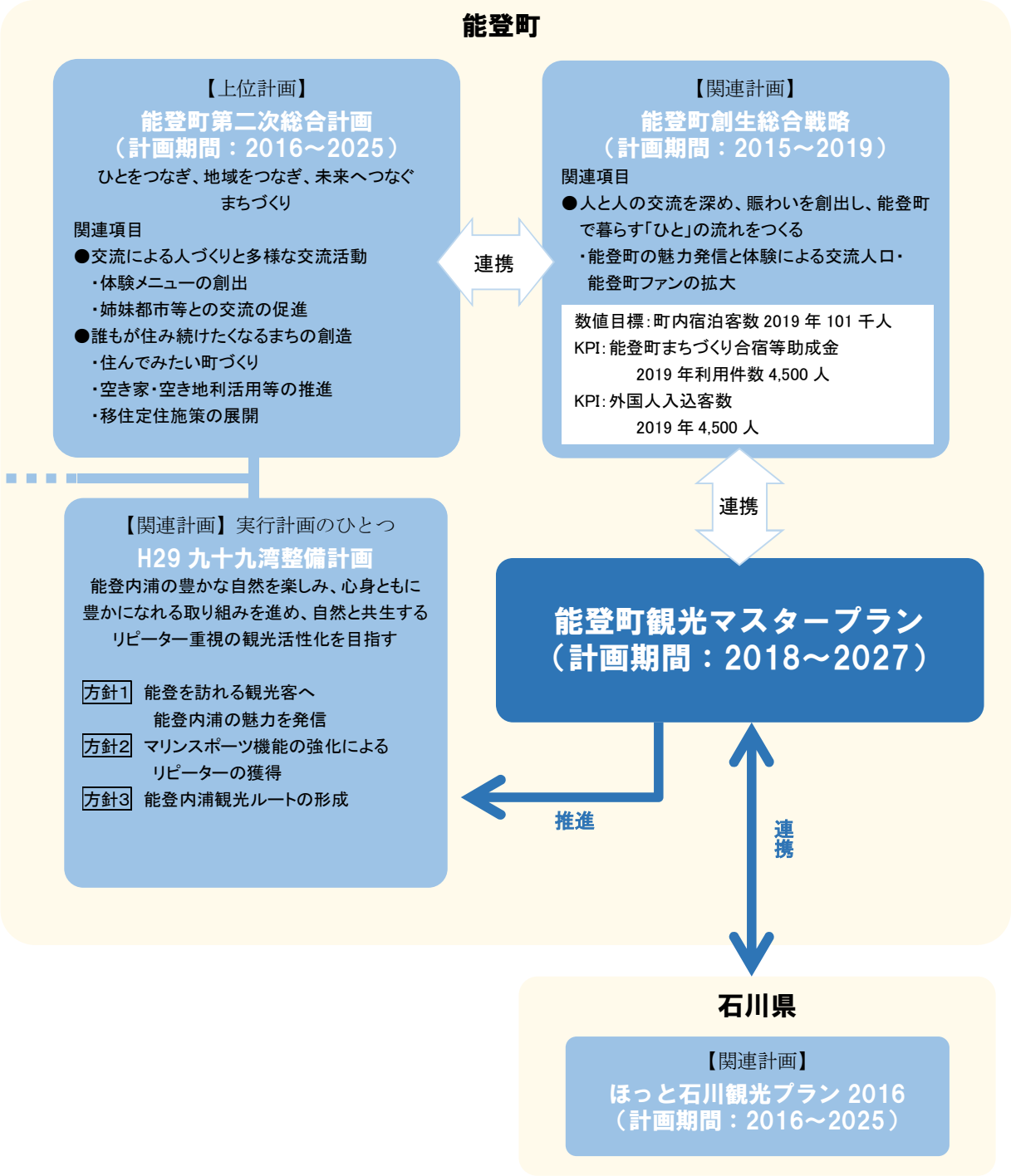
序－2　策定期間

2018 年から 2027 年度まで

※5 年目の平成 2022 年度に中間評価を行います。

序－3　計画の位置づけ

本マスタープランは、石川県が策定した「ほっと石川観光プラン 2016」との連携、整合性を図るとともに、能登町の最上位計画である「能登町第二次総合計画」（平成 28 年３月策定）を推進するためのプランとして位置付け、関連計画である「能登町創生総合戦略」、「九十九湾整備計画」のまちづくりと整合性を図りながら、能登町の観光活性化を実現します。



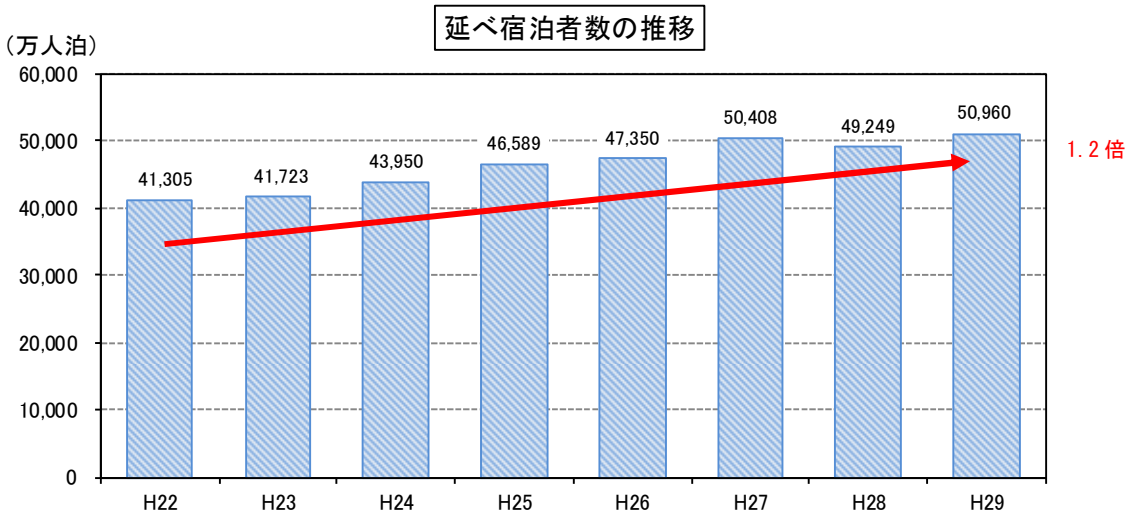
第１章　能登町の観光を取り巻く現状

１－１　国内観光の動向

（１）延べ宿泊者数の推移

平成 29 年の延べ宿泊者数は約５億 960 万人泊で、平成 22 年と比べて 1.2 倍、割合で約 23.4%増加し、平成 19 年の統計開始以来の最高記録を更新しました。

また、これまでの延べ宿泊者数の推移をみると、概ね堅調に増加しています。



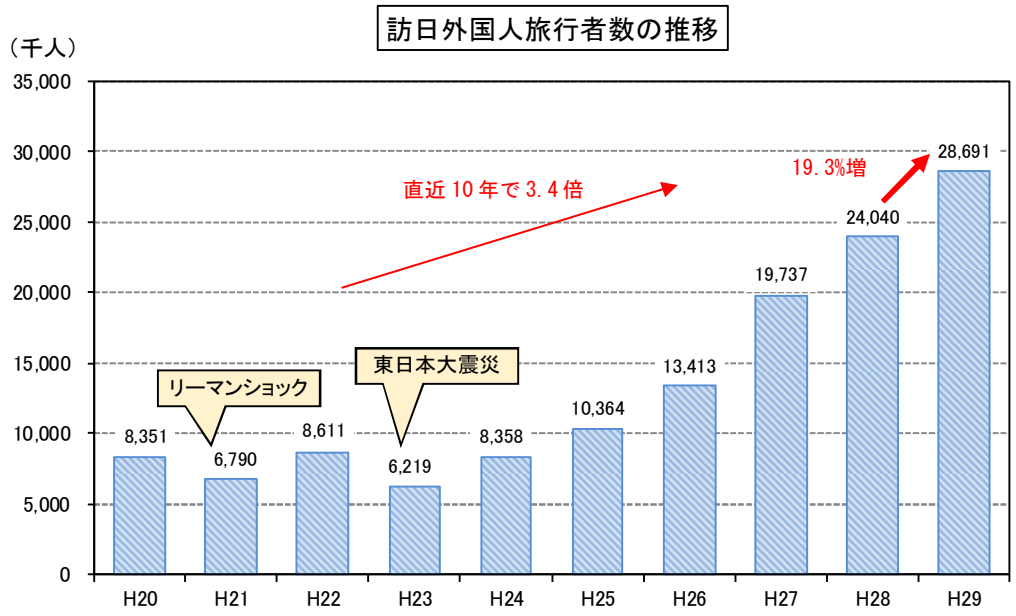
資料：「宿泊旅行統計調査」国土交通省 観光庁

（２）訪日外国人旅行者数の推移

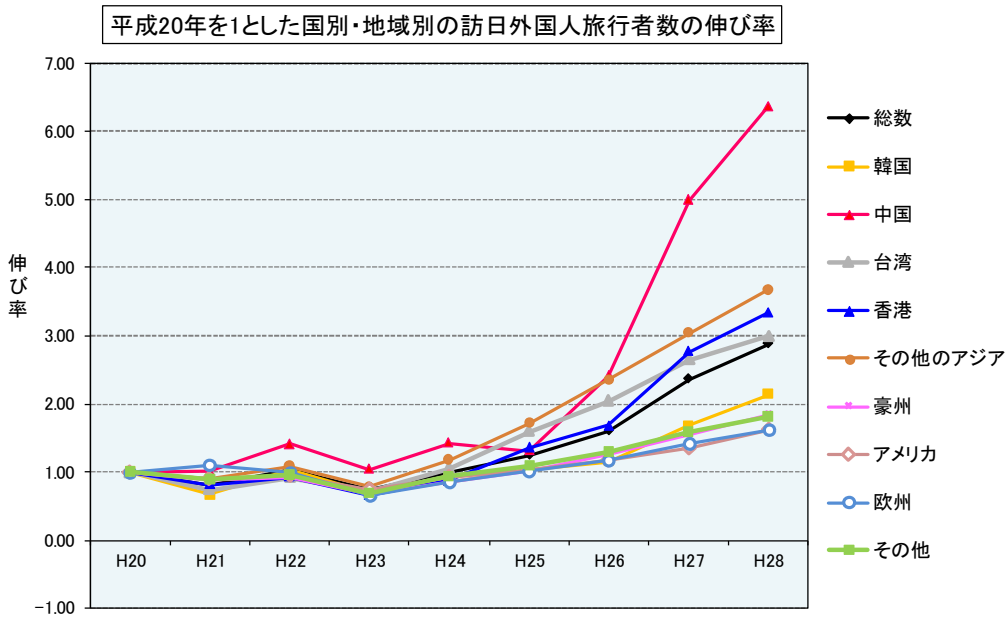
平成 29 年の訪日外国人旅行者数は、前年比 19.3%増の約 2,869 万 1,000 人で統計開始以来の最高記録を更新しています。平成 20 年と比べても 3.4 倍の大幅な増加がみられます。

また、経年変化をみると、平成 21 年のリーマンショックと平成 23 年の東日本大震災の影響により、訪日外国人旅行者は一旦減少しましたが、翌年には回復するとともに、年々増加しており、特に近年における増加が顕著となっています。

また、国籍別では、中国からの訪日旅行者の増加が顕著となっています。



資料：国際観光振興機構（ＪＮＴＯ）



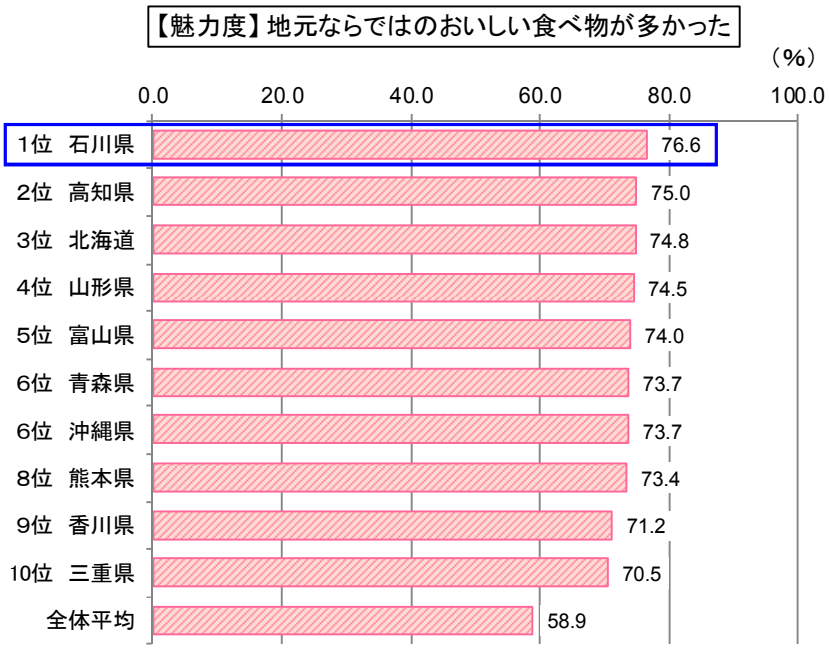
資料：国際観光振興機構（ＪＮＴＯ）

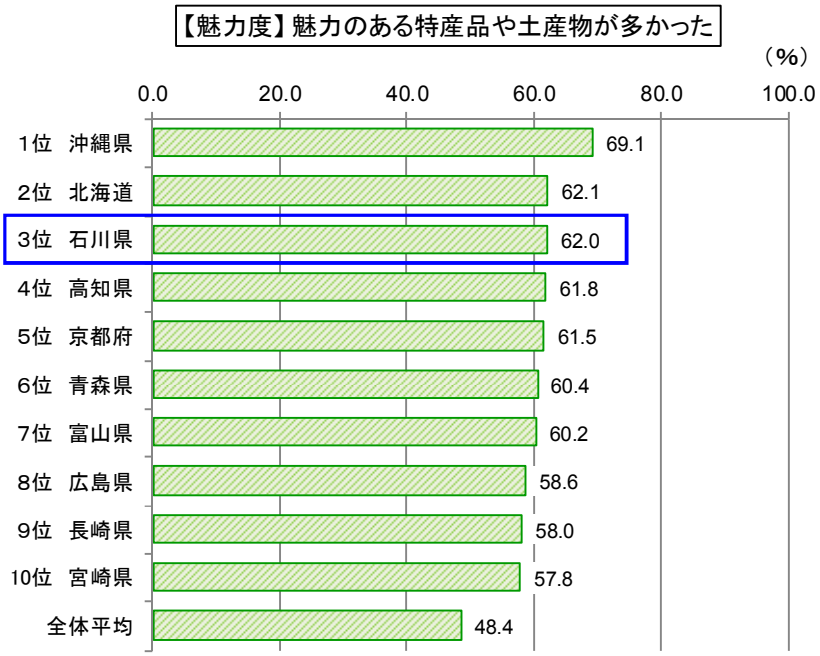
（３）都道府県魅力度ランキング

じゃらんリサーチセンターでは、「じゃらん宿泊旅行調査 2018」において、訪問した旅行先の評価を調査・集計し、都道府県魅力度ランキングを算出しています。

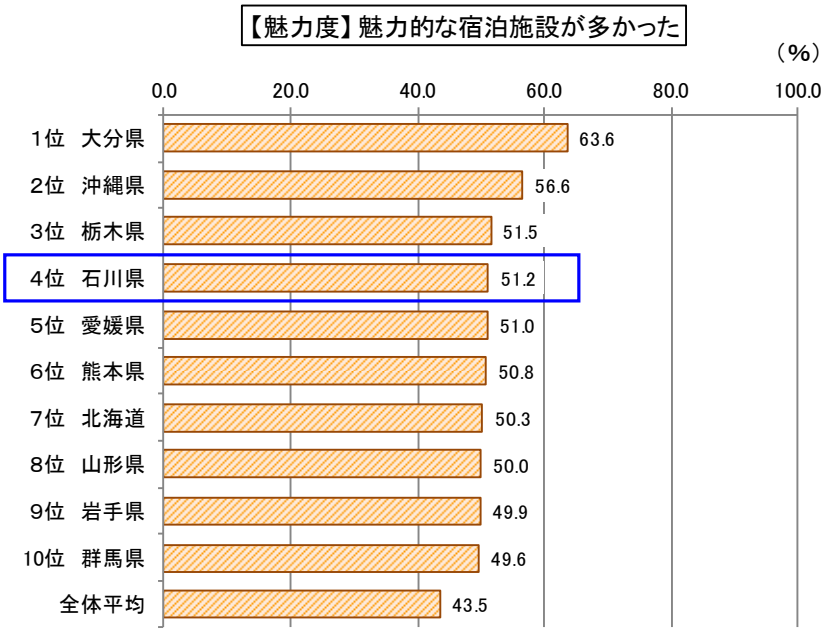
これによると、石川県は、「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」で１位、「魅力のある特産品や土産物が多かった」で３位、「魅力的な宿泊施設が多かった」で４位にそれぞれランクインしています。

特に、「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」は前年度２位→１位、「魅力的な宿泊施設が多かった」は前年度６位→４位とそれぞれ順位を上げています。





資料：「じゃらん宿泊旅行調査 2018」リクルートライフスタイル



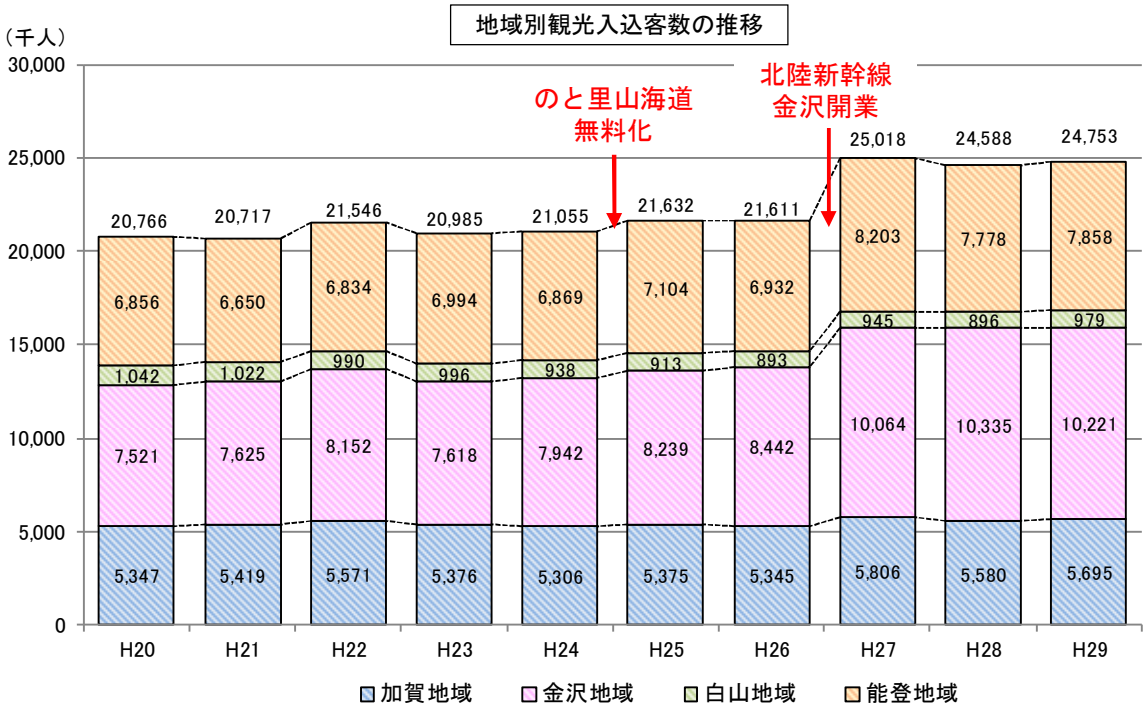
資料：「じゃらん宿泊旅行調査 2018」リクルートライフスタイル

1－2 県内観光の動向

（１）石川県の地域別観光入込客数の推移

平成 29 年の石川県の観光入込客数は平成 20 年と比べて 1.2 倍、割合で約 19.2%増加しています。北陸新幹線金沢開業前の平成 26 年比では約 14.5%増加しており、前年に引き続き開業前の水準を大きく上回っています。

また、地域別の入込客数をみると、平成 20 年と比べて金沢地域は 35.9%増加と最も増加率が高く、次いで能登地域では 14.6%増加しています。



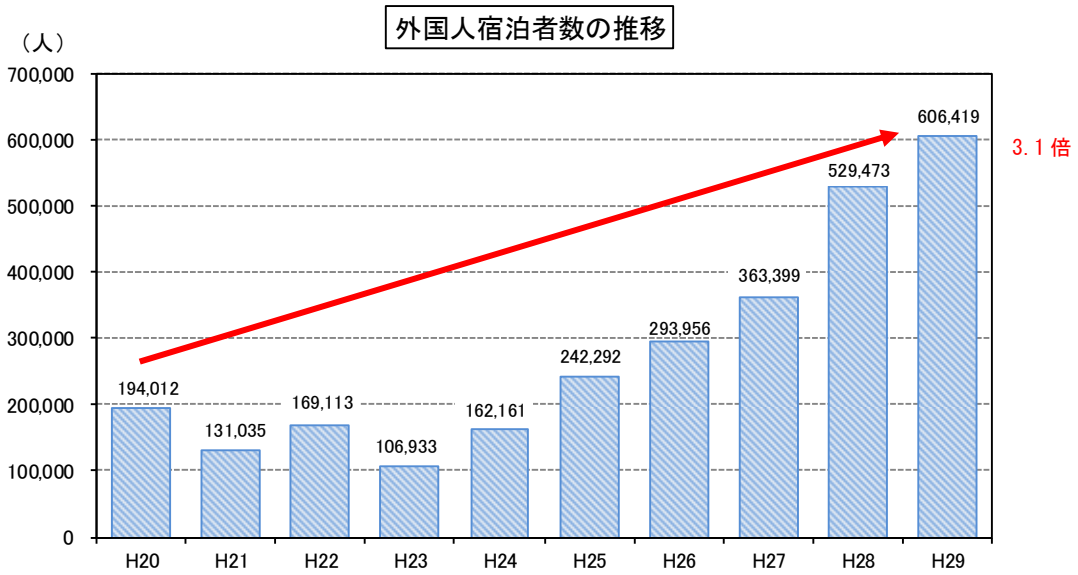
資料：「統計からみた石川県の観光」石川県

※地域の区分
加賀地域：小松市、加賀市、能美市、川北町
金沢地域：金沢市、かほく市、白山市（旧松任市、旧美川町）、野々市市、津幡町、内灘町
白山地域：白山市（旧鶴来町、旧河内村、旧吉野谷村、旧尾口村、旧白峰村）
能登地域：宝達志水町以北

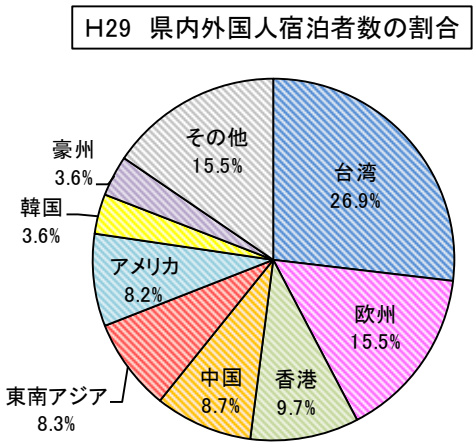
（２）外国人宿泊者数の推移

平成 29 年の本県の外国人宿泊者数は 606,419 人で、平成 20 年と比べて 3.1 倍に増加しています。ビザ発給要件の緩和に加え、新幹線沿線自治体やＪＲ等との連携による観光誘客の取り組み等により、宿泊客が大きく増加し、５年連続で過去最高を記録しています。

また、平成 29 年の国別の宿泊者の割合をみると、台湾が 26.9%を占め最も多く、次いで欧州の 15.5%、香港の 9.7%となっています。



資料：「統計からみた石川県の観光」石川県

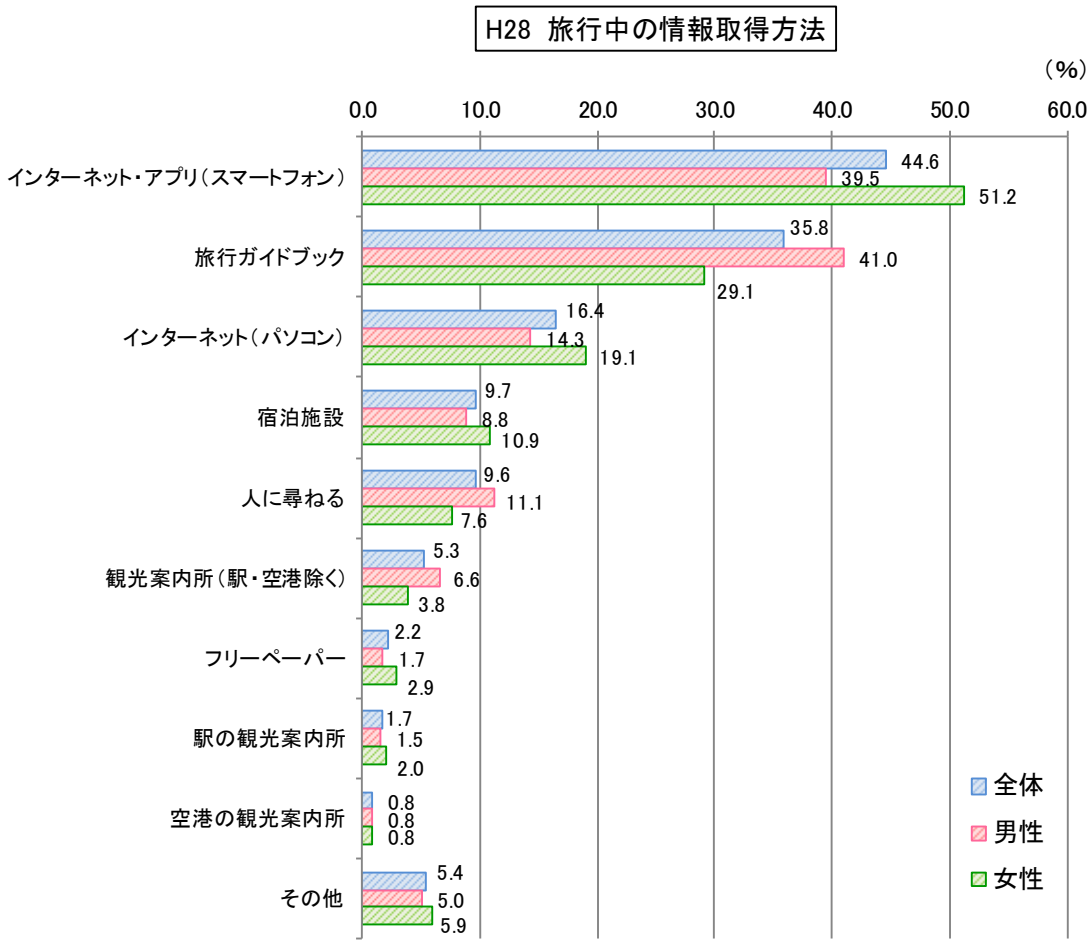


資料：「統計からみた石川県の観光」石川県

（３）旅行中の情報取得方法

観光客の旅行中の情報取得方法は、全体では「インターネット・アプリ（スマートフォン）」が 44.6%を占め最も多く、次いで「旅行ガイドブック」の 35.8%、「インターネット（パソコン）の 16.4%となっています。

また、男女別では、男性は「旅行ガイドブック」が 41.0%を占め最も多く、女性は「インターネット・アプリ（スマートフォン）」が 51.2%を占め最も多いなど、取得方法に若干の相違がみられます。



資料：「統計からみた石川県の観光」石川県

１－３　能登町の観光を取り巻く環境変化

（１）交通環境の変化

①　のと里山海道の無料化

のと里山海道は、南北に細長い県土を一体的に結び、金沢と能登の連携強化や広域交流の拡大等を図る重要な道路です。

平成 25 年３月にのと里山海道が全線無料化されたことにより、交通量が約２倍に増加したほか、能登地域への観光客の増加や新たな企業進出がみられるなど、様々な効果が現れています。

また、のと里山海道の全線４車線化に向け、柳田ＩＣ～上棚矢駄ＩＣ間において４車線化整備が進められており、これにより能登と金沢の移動時間を短縮し、さらなる広域交流の拡大や能登地域の活性化が期待されています。

資料：「2012 道路整備効果事例集」国土交通省

② 北陸新幹線金沢開業

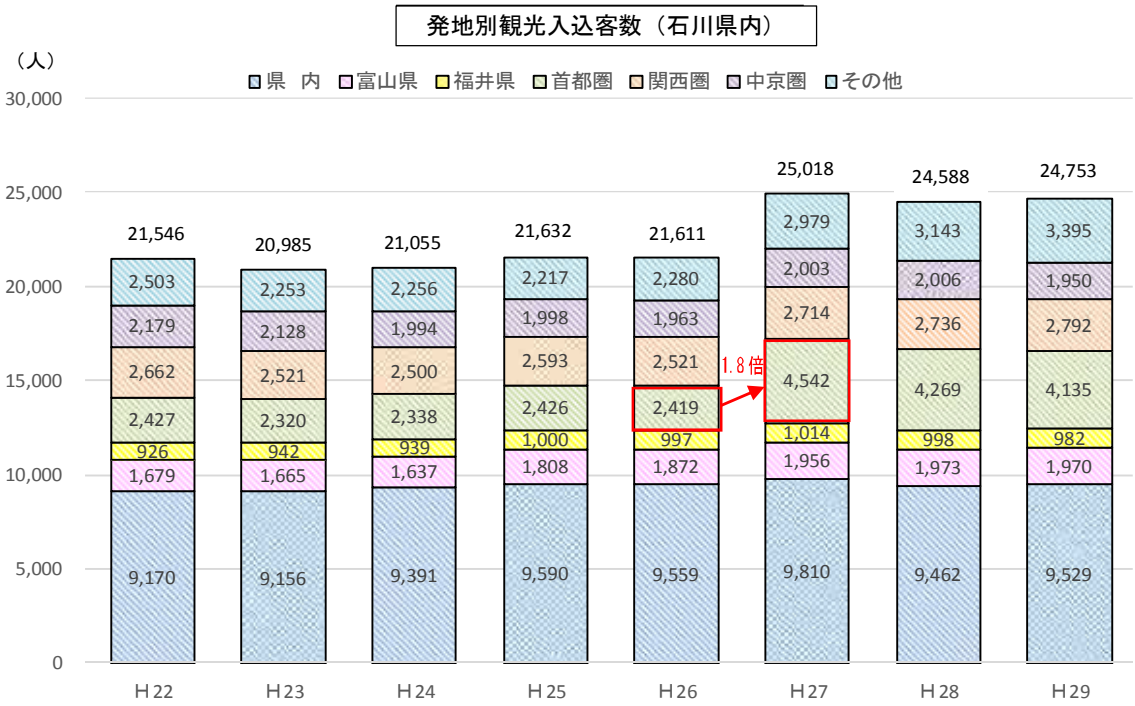
平成 27 年３月の北陸新幹線金沢開業により、首都圏のみならず、長野県などの沿線地域や東北地方などとの時間距離が短縮され、輸送能力も大幅に向上しました。

新幹線金沢開業によりテレビ・新聞・雑誌等のマスコミに北陸や石川県が数多く取り上げられ、観光地としての認知度が飛躍的に向上しました。その結果、首都圏では開業前後で 1.8 倍増加し、首都圏のみならずそれ以外の地域からの観光客も増加しています。

北陸新幹線の利用状況

区　分	利用者数	前年比	期　間
１年目	925.８万人	295％ （在来線特急比）	H27.３.14～28.３.13
２年目	858.４万人	93％	H28.３.14～29.３.13
３年目	856.９万人	100％	H29.３.14～30.３.13

資料：ＪＲ西日本（上越妙高～糸魚川駅間実績）



首都圏：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県
関西圏：大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県
中京圏：愛知県、岐阜県、静岡県、三重県

資料：「統計からみた石川県の観光」石川県

③　能越自動車道　七尾氷見道路全線開通

能越自動車道は、石川県輪島市を起点とし、富山県氷見市、高岡市を経由して、小矢部市に至る延長約 100 kmの高規格幹線道路（自動車専用道路）です。

本道路は、平成 27 年２月に氷見七尾道路が全線開通となったことにより、安全・安心な走行環境が確保されるとともに、富山方面、更には三大都市圏との交流を促進し、能登地域の新たな観光需要の創出に寄与しています。

能越自動車道七尾氷見道路 位置図

資料：「一般国道 470 号能越自動車道　七尾氷見道路」金沢河川国道事務所

（２）文化遺産認定

①　世界農業遺産認定「能登の里山里海」

国連食糧農業機関（ＦＡＯ）により 2002 年に創設された「世界農業遺産（ＧＬＡＨＳ）」は、地域の環境と調和を取りながら受け継がれてきた農業システムとその農業システムによって支えられてきた文化、景観、生物多様性等を全体として認定し、それらの保全と持続的な活用を目的としています。

平成 23 年６月に、新潟県佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」とともに、先進国では初めて世界農業遺産に認定されました。能登は、地域に根差した里山里海が集約された地域であり、今回の「能登の里山里海」の認定は、その総合力が高く評価されたものです。農林水産業とそれに関連した人々の営みのすべて、いわば能登の里山里海で育まれる暮らしそのものが「世界農業遺産」として認定されました。

伝統的な農林漁法と土地利用

稲のはざ干し（天日干し）や海女漁などの伝統的な農林漁法が今も継承されています。農業用の水源として2千を超える「ため池」が点在し、傾斜地には棚田が多く見られます。

多様な生物資源

能登各地の里山里海には希少種を含むたくさんの生きものが生息・生育し、渡り鳥も多く見られます。また、「能登野菜」などの在来品種の栽培の振興も積極的にはかられています。

優れた里山景観

日本海に面した急傾斜地に広がる「白米千枚田」をはじめとした棚田や「間垣」と呼ばれる竹の垣根、茅葺きや白壁・黒瓦の家並みなどは、日本の農山漁村の原風景とも表現される景観です。

伝えたい伝統的な技術

唯一能登にのみ残る「揚げ浜式」と呼ばれる製塩法や、日本を代表する漆器「輪島塗」といった伝統工芸、里山の管理・保全と密接に結び付いた「炭焼き」などの伝統的な技術が継承されています。

文化・祭礼

夏から秋にかけて豊漁や豊作を祈願して行われる「キリコ祭り」をはじめ、ユネスコの無形文化遺産にも登録された農耕儀礼「あえのこと」など、農林水産業と密接に結び付いた文化・祭礼が各地に継承されています。

里山里海の利用保全活動

「能登の里山里海」を未来へ引き継ぐため、棚田のオーナー制度や農家民宿、農林水産物のブランド化、多様な主体による生業創出の取組、行政と大学が連携した人材育成などが進められています。

②　日本遺産認定「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」（石川県、七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町）は、平成 27 年４月に、日本遺産の最初の 18 件の一つして認定されました。

あばれ祭（能登町）

輪島大祭（輪島市）

沖波の大漁祭り（穴水町）

石崎奉燈祭（七尾市）

西海祭り（志賀町）

宝立七夕キリコ祭り（珠洲市）

<u>「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」概要</u>

日本海文化の交流拠点である能登半島は独自の文化を育み、数多くの祭礼が行われてきました。その白眉はキリコ祭りと総称される灯籠神事で、夏、約 200 地区で行われ、能登を照らし出します。

日本の原風景である素朴な農漁村で神輿とともに、最大で２トン、高さ 15mのキリコを担ぎ上げ、激しく練り回ります。祇園信仰や夏越しの神事から発生した祭礼が、地区同士でその威勢を競い合う中で独特な発展をし、そしてこれほどまでに灯籠神事が集積をした地域は唯一無二です。夏、能登を旅すればキリコ祭りに必ず巡り会えると言っても過言ではなく、それは神々に巡り会う旅ともなります。

資料：日本遺産認定書ストーリーの概要

③　ユネスコ無形文化遺産登録「アマメハギ」

平成 30 年 11 月に石川県内では「奥能登のあえのこと」、「青柏祭の曳山行事」に続き３例目のユネスコの無形文化遺産として、「能登のアマメハギ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」が登録されました。

「無形文化遺産」とは、ユネスコ（国連教育科学文化機関）によって選定される人類全体のための無形の文化であり、芸能（民族音楽・ダンス・劇）、祭礼、伝統工芸技術などを対象としています。

国指定重要無形民俗文化財「アマメハギ」

鬼に扮した子どもたちが、蓑を付けフカグツを履き、手に包丁（模造）やサイケ（竹で作った筒のようなもの）をさげ、「アマメー」と叫び、なまけ癖のついた人を「早く外に出て働け」と戒める民俗儀礼です。

※「アマメ」とは能登の方言で、いろりに長く座っていると手足にできる火だこのことで、それをはぎ取るという意味から「アマメハギ」と呼ばれています。

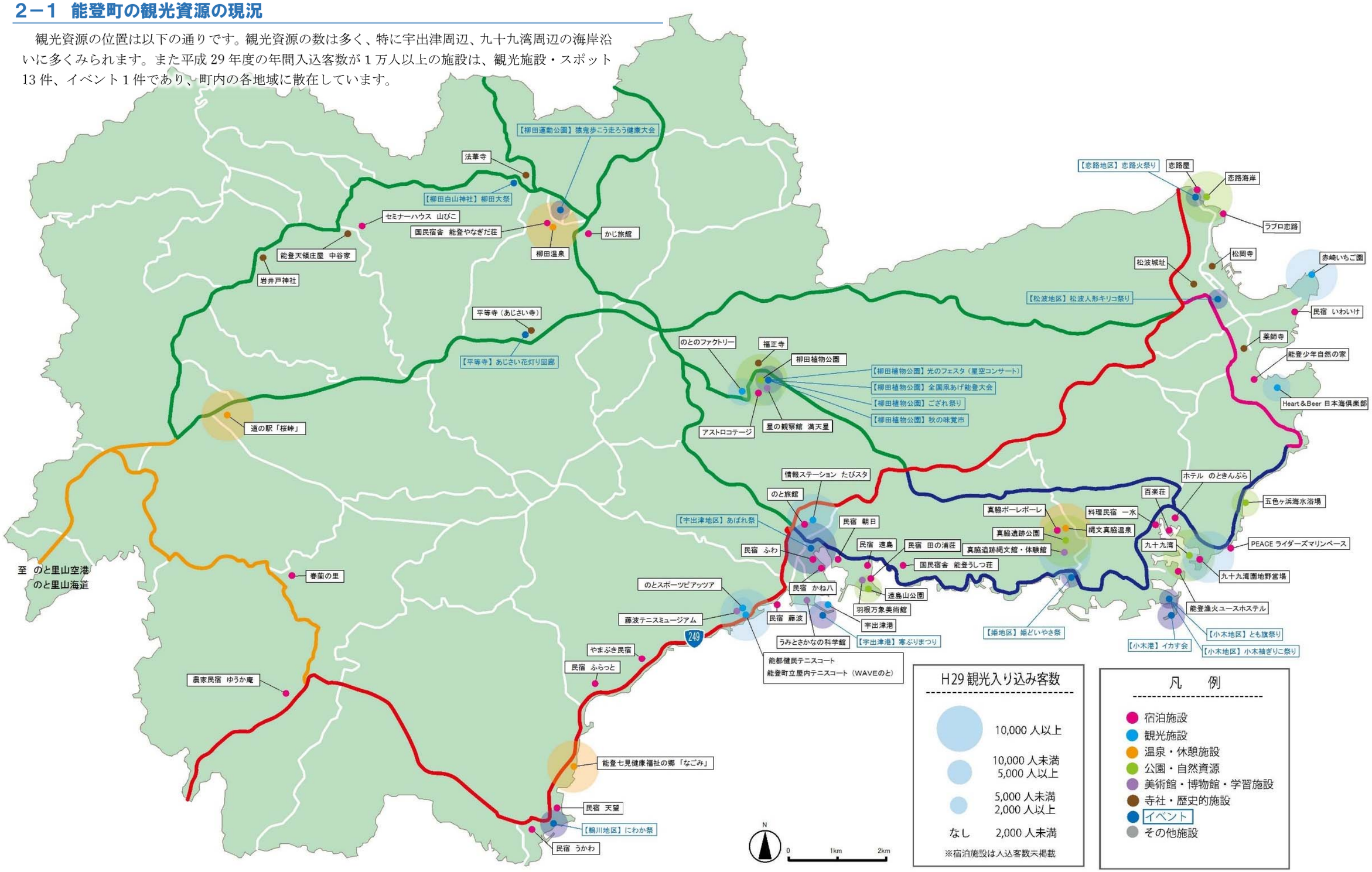
【開 催 期 間】毎年２月３日
【スケジュール】日が暮れた頃から出発（17 時半～18 時頃）
【開 催 場 所】能登町秋吉、宮犬、清真、河ヶ谷

春を呼ぶ能登の来訪神　アマメハギ

第2章　能登町観光の現況

2－1　能登町の観光資源の現況

観光資源の位置は以下の通りです。観光資源の数は多く、特に宇出津周辺、九十九湾周辺の海岸沿いに多くみられます。また平成 29 年度の年間入込客数が 1 万人以上の施設は、観光施設・スポット 13 件、イベント 1 件であり、町内の各地域に散在しています。



２－２　能登町の食・特産品

（１）能登町の食

能登町は、自然環境と食文化に恵まれており、昔から食べられてきた家庭の味や滋味豊かな郷土料理、地元で水揚げされた新鮮な魚介、緑豊かな山で育った山菜など、多彩な味を味わうことができます。

能登町の食

品目	特　徴
ぶり大根	ぶり大根は、北陸の冬を代表する料理で、ぶりのアラから出る脂の乗った旨みを存分に大根にしみ込ませるのがコツです。冬に旬を迎える郷土料理として知られ、今では全国各地でよく食べられています。
いしり貝焼	ホタテ貝の貝殻を鍋に使い、いしりを昆布だしなどで５～６倍に薄めた中に、なす、大根、きのこ類、海藻、イカの身や海老、白身の魚類を入れ、煮ながら熱々を食します。
ひねずし	なれずしの一種で、アジやハチメ、アユなどをご飯に漬け込み、醗酵させます。独特の酸味があり、各家庭に自慢の味があります。
こんかいわし	いわしを糠で漬け込んだ保存食で、食べ方は幅広く、ぬか付きのまま軽く焼いて食べたり、糠を洗い落とし薄切りにした刺身を酢やレモン汁につけて食べたりします。刺身に、ねぎやおろししょうがといった薬味を用いたりするほか、お茶漬けも美味です。
べん漬け	野菜や山菜をいしりで漬けた漬物で、主に輪島市、珠洲市、能登町など奥能登地域の郷土料理です。また、祭り料理にもつくられます。「べん」とは精進料理の反対の意味で使われます。
能登丼	奥能登の２市２町（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町）の各店舗が奥能登の食材・食器を使って、健康、長寿、ヘルシーにこだわり、奥能登地域内で調理・提供する能登らしいオリジナリティあふれる丼です。町内では、能登牛炙り丼、海鮮能登丼、くじら丼等を堪能することができます。

いしり貝焼

こんかいわし

くじら丼

【二次加工品】	
ジェラートの 製造・販売	能登の豊かな自然でのびのび育った乳牛から搾られる生乳と旬のフルーツやカボチャ、サツマイモなど地場野菜を原料にしたバラエティ豊かなジェラートが製造・販売されています。 店内には、上記の定番ジェラートのほか、かき貝、いしり、いか、岩のり、わかめ、めかぶ、いか墨等の地域素材や能登の塩田の天然塩を使用したジェラート等も並んでいます。
ジャム等の 製造・販売	奥能登産にこだわった地元産品を利用して、ジャム、ヨーグルト、アイスミルク等が製造・販売されています。商品は、素材を活かした自然の仕上がりになるように、こだわりの製造となっています。 また、ブルーベリーの収穫時期には、町内で摘み取りを楽しめるほか、ジャム作りも体験できます。

（２）能登町の特産品

本町には、ブルーベリーやイチゴ、新鮮な魚介類、加工品のいしりなど、新鮮な里山里海の幸やそれらを加工した産品、合鹿椀等の伝統工芸など、数多くの特産品があります。

能登町の主要な特産品

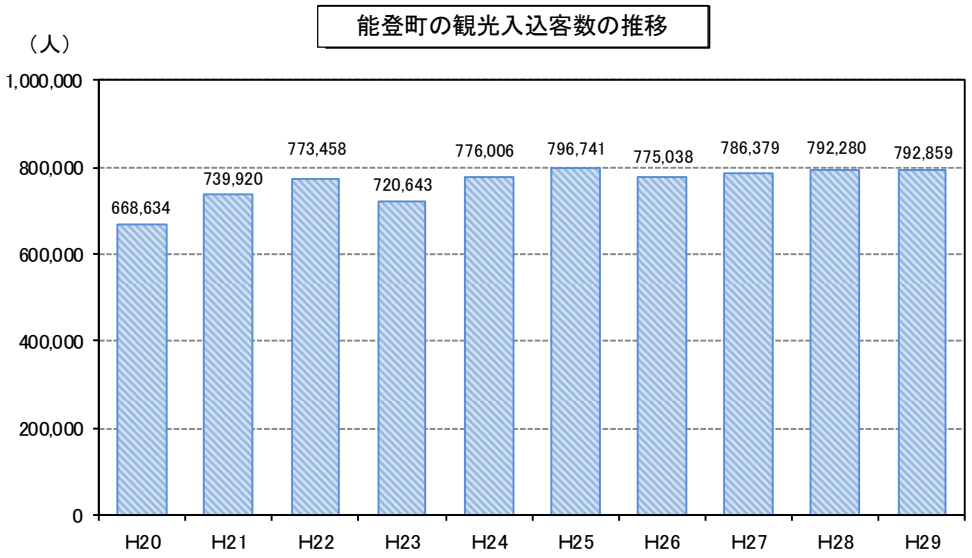
品目	特　徴
ブルーベリー	能登町は北陸で最大級のブルーベリーの産地で、「ブルーベリーの里」として知られており、７月初旬～８月上旬にかけて収穫の最盛期を迎えます。柳田地区では、ブルーベリーの摘み取りやジャム作りなどを体験することができます。
赤崎イチゴ	能登町布浦にある赤崎台地で栽培されるイチゴで、品種は「宝交早生」で甘みが強く、果肉が柔らかいことが特徴です。柔らかい分、傷みやすく、長距離輸送に向かないため、ほとんどが観光農園の摘み取り用として消費されています。
能登牛	能登牛は肉質のきめが細かく、脂肪酸中のオレイン酸の含有量が豊富で、香りがよく、とろけるような食感を有しているのが特徴です。肉質等級Ａ３以上またはＢ３以上等の基準を満たした黒毛和種は年間出荷頭数が少なく、ほぼ石川県内でしか流通していません。
きのこ（コケ）	奥能登地域でしか採れない「コノミタケ」は、地元ではマツタケよりも高級品として取り扱われています。能登町では、様々な種類のキノコを能登ならではの調理で食することができ、毎年シーズンになると、能登のキノコ料理を目当てに多くの観光客が訪れます。
新鮮な魚介類	古くから漁業の中心地として栄え、現在は 100 余りの定置網を中心とした沿岸漁業やイカ釣り主体の沖合漁業が盛んで、水揚げされる魚種の数も多く、四季折々の海産物が楽しめます。 特に、冬季に水揚げされる極上の「のと寒ぶり」は、産地ブランドとして注目を集めています。
船凍イカ	小木・姫の両地区は、日本海側最大の船凍イカの基地となっています。獲れたスルメイカを船内で急速凍結するため、鮮度が保たれています。「船内一本凍結イカ」は石川船団が編み出した製法で、全国的にも有名なブランドとなっています。

品目	特　徴
干物等水産加工品	四季折々に多品種の海産物が水揚げされるため、数多くの水産加工品が製造されており、「能登海洋深層水」や「いしり」を活用した能登町ならではの珍しい加工品も多くあります。また、海産物を使った醗酵食文化も盛んで、糠漬けや粕漬け等の醗酵食品も数多く製造されています。
いしり	日本三大魚醤油に数えられる「いしり」は、新鮮なイカの内臓を塩漬けにして時間をかけて醗酵させた調味料です。刺身や焼き魚、野菜の煮込みの調味料として、また醤油代わりに使用されています。
能登海洋深層水	小木港沖 3.7km、水深 320mの海域から取水される県内唯一の海洋深層水で、すっきりとした飲みやすい軟水です。 また、ミネラルが豊富で、農水産物加工や酒、化粧品などにも利用されています。
能登の塩	取水した海洋深層水を 1.5 倍に濃縮し、非直火型低温製法にて 60℃以下の温度で５日間かけて製塩します。約３ｔの深層水から 60kg 程しかできないため、製造量は年間で最大４ｔ程ですが、この製法によりバランスの取れたミネラル特性を残すことができます。
地酒	能登杜氏が醸す酒は「能登流」と称されしっかりとした濃い味が特徴で、芳醇な味わいは能登杜氏の技の結晶でもあります。能登町では三つの酒蔵が伝統を守りながら丁寧に酒を造り続けており、能登の郷土料理にも相性がよく愛され続けています。
合鹿椀	合鹿地区に古くから伝わるお椀で、特徴的な形をしています。高台（椀の底の足の部分）が高く、大ぶりなため、多用途に用いることができるお椀です。
久田和紙	350 年前の文献にも見られる久田和紙は、コウゾのみを使った丈夫で染みのない和紙として重宝されていましたが、洋紙の普及に押され大正初期に廃れたとされています。 しかし近年、学校教育の一環としてその生産が再び始まり、地域住民らの手によってその伝統が引き継がれています。

2－4 能登町の観光動向

（１）能登町の観光入込客数の推移

平成 29 年の能登町の観光入込客数は 792,859 人で、平成 20 年と比べると 18.6%増加しています。平成 23 年には 72 万人台に一旦減少しましたが、翌年には回復し、その後は 78 万人前後で推移しています。



資料：能登町調べ

（参考）

能登町の観光入込客数が、近年横ばいで維持する一方、将来人口は 2025 年の約 1 万 4,000 人から、2040 年には約 9 千人（対 2025 年比 45.5%）と、20 年後には半数以下となる見込みであり、本町では将来の人口目標を定め、それに向け様々な施策に取り組んでいます。

将来人口の変化

	2025 年（H37）	2040 年（H52）	2060 年（H72）
総人口	13,728 人	8,896 人	4,589 人
高齢化率	53.2%	55.9%	54.6%
対 2010 年人口比	70.2%	45.5%	23.5%

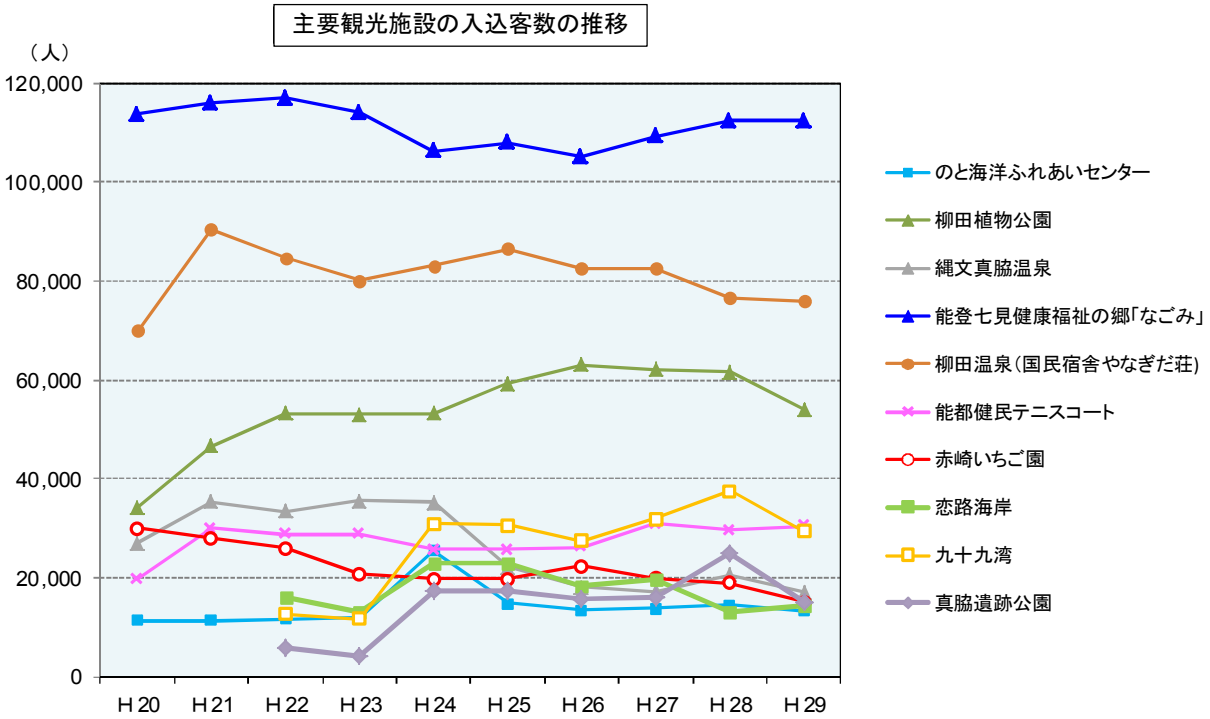
能登町の将来人口と目標

資料：「能登町創生人口ビジョンの全体像」能登町

（２）主要観光施設の入込客数の推移

平成 29 年の主要観光施設の入込客数をみると、「能登七見健康福祉の郷「なごみ」」が 112,495 人と多く、次いで「柳田温泉（国民宿舎やなぎだ荘）」の 75,964 人、「柳田植物公園」の 54,128 人となっています。

平成 20 年（平成 22 年）の入込客数と比較すると、「のと海洋ふれあいセンター」、「柳田植物公園」、「柳田温泉（国民宿舎やなぎだ荘）」、「能都健民テニスコート」、「九十九湾」、「真脇遺跡公園」は増加していますが、その他の施設は減少しています。



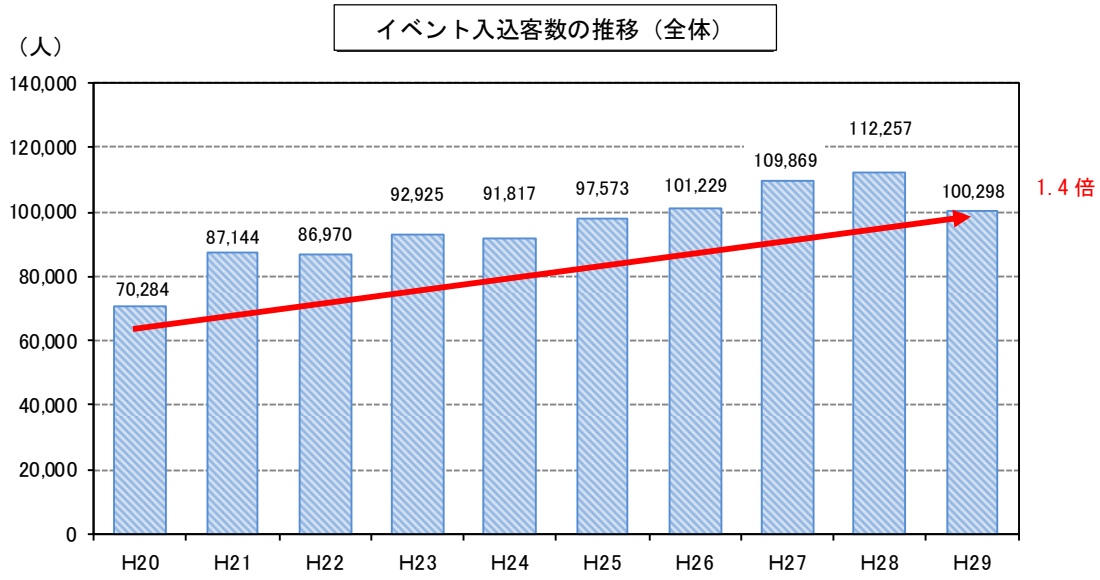
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
のと海洋ふれあいセンター	11,383	11,451	11,797	12,133	25,644	14,896	13,482	13,916	14,485	13,332
柳田植物公園	34,374	46,638	53,232	53,065	53,233	59,391	63,116	62,137	61,603	54,128
縄文真脇温泉	27,137	35,470	33,513	35,688	35,322	22,077	18,126	17,390	20,679	17,108
能登七見健康福祉の郷「なごみ」	113,803	116,009	116,999	114,135	106,400	108,067	105,266	109,286	112,401	112,495
柳田温泉（国民宿舎やなぎだ荘）	70,047	90,572	84,780	80,200	83,048	86,551	82,623	82,604	76,630	75,964
能都健民テニスコート	19,800	29,949	28,889	28,895	25,737	25,796	26,242	31,040	29,725	30,543
赤崎いちご園	30,000	28,000	26,000	20,800	19,800	19,800	22,500	20,000	19,000	15,200
恋路海岸	－	－	16,080	13,280	22,941	22,914	18,560	19,840	13,239	14,594
九十九湾	－	－	12,766	11,683	30,955	30,687	27,618	32,073	37,615	29,545
真脇遺跡公園	－	－	5,784	4,140	17,480	17,435	15,865	16,056	25,075	15,062

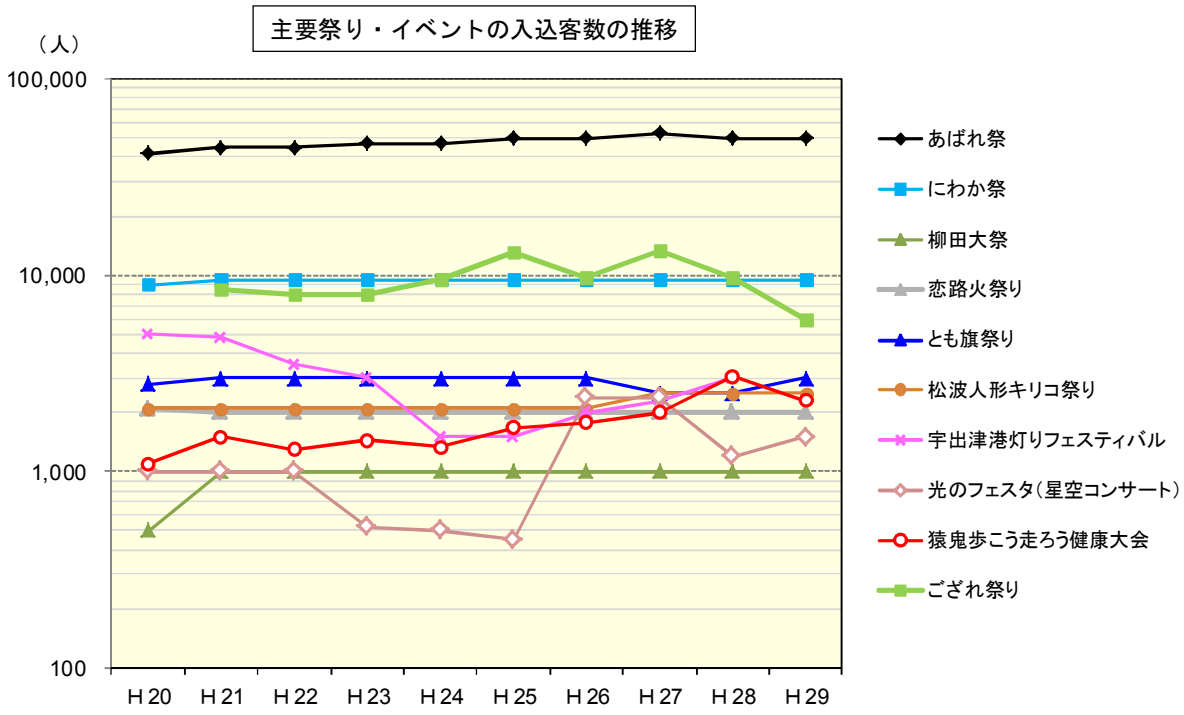
資料：能登町調べ

（３）祭り等のイベント入込客数の推移

イベント入込客数の推移をみると、平成 29 年は 100,298 人であり、平成 20 年と比べると 1.4 倍に増加しています。

また、平成 29 年の主要祭り・イベントの入込客数をみると、「あばれ祭」が約 50,000 人で圧倒的に多く、次いで「にわか祭」の約 9,500 人、「ござれ祭り」の約 6,000 人となっています。いずれも概ね横ばいで推移していますが、天候に左右される屋外イベントについては、一時的に増減がみられます。



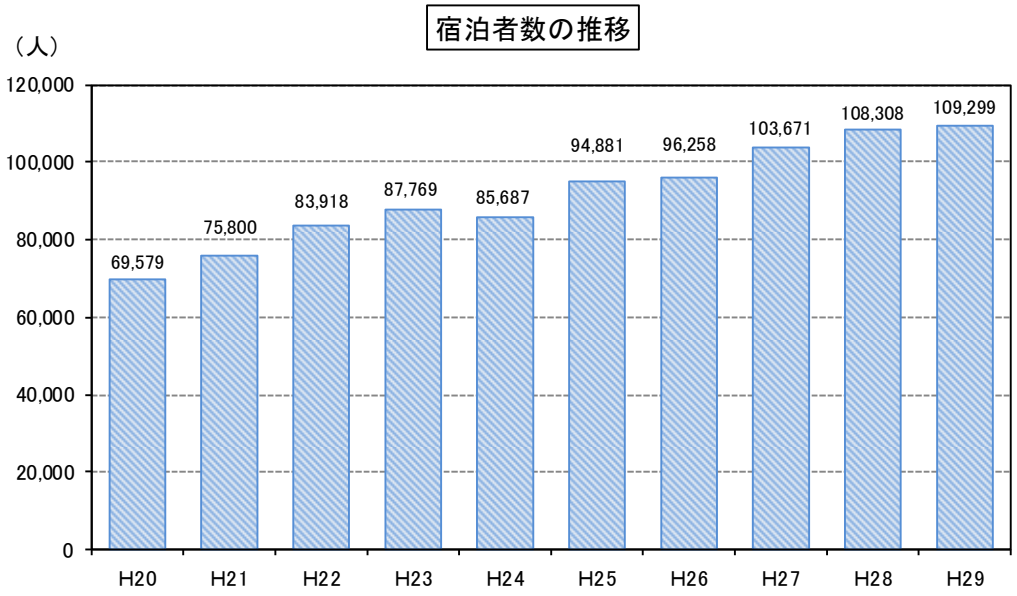


	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
あばれ祭	42,000	45,000	45,000	47,000	47,000	50,000	50,000	53,000	50,000	50,000
にわか祭	9,000	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500
柳田大祭	500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
恋路火祭り	2,100	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
とも旗祭り	2,800	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	2,500	2,500	3,000
松波人形キリコ祭り	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	2,500	2,500	2,500
宇出津港灯りフェスティバル	5,000	4,800	3,500	3,000	1,500	1,500	2,000	2,300	3,000	－
光のフェスタ（星空コンサート）	1,000	1,000	1,000	525	500	450	2,400	2,400	1,200	1,500
猿鬼歩こう走ろう健康大会	1,100	1,500	1,300	1,450	1,334	1,680	1,775	2,002	3,052	2,298
ござれ祭り	－	8,500	8,000	8,000	9,600	13,200	9,800	13,500	9,800	6,000

資料：能登町調べ

（４）宿泊客数の推移

平成 29 年の宿泊客数は 109,299 人であり、平成 20 年と比べると約４万人（57.1%）増加しています。また、これまでの述べ宿泊者数の推移をみると、概ね堅調に増加しています。



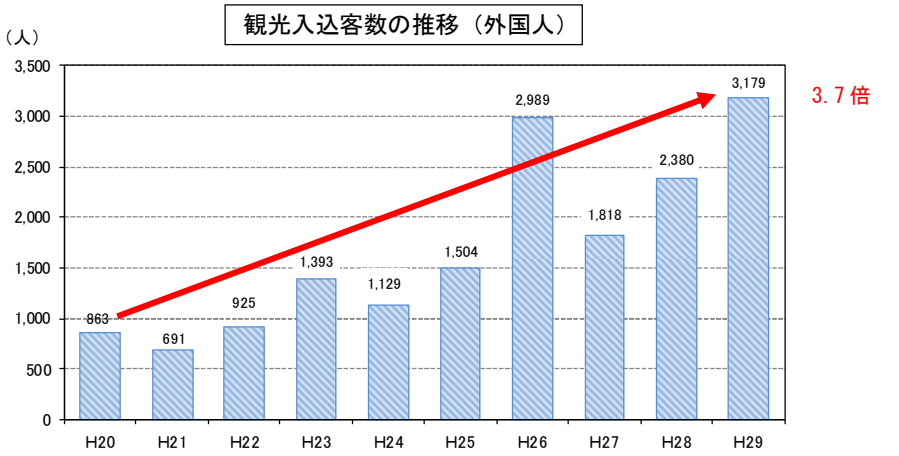
資料：能登町調べ

（５）外国人入込客数及び宿泊者数の推移

平成 29 年の外国人の入込客数は 3,179 人であり、平成 20 年と比べると 3.7 倍に増加しています。平成 26 年に前年度の約倍増となる 2,989 人を記録し、初めて 2,000 人を突破しました。翌年には 1,800 人台に減少しましたが、その後は回復傾向を示しています。

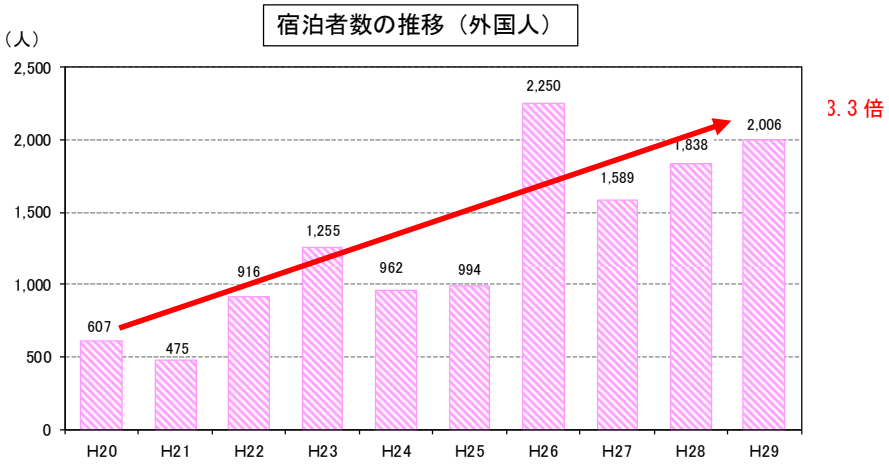
宿泊者数は、平成 29 年度で約 2,006 人であり、平成 20 年と比べると 3.3 倍です。

観光入込客数の推移（外国人）



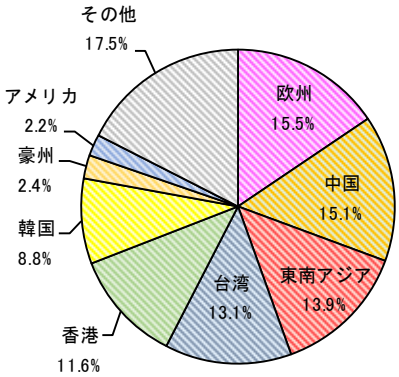
資料：能登町調べ

宿泊者数の推移（外国人）



資料：能登町調べ

H29　能登町外国人宿泊者数の割合

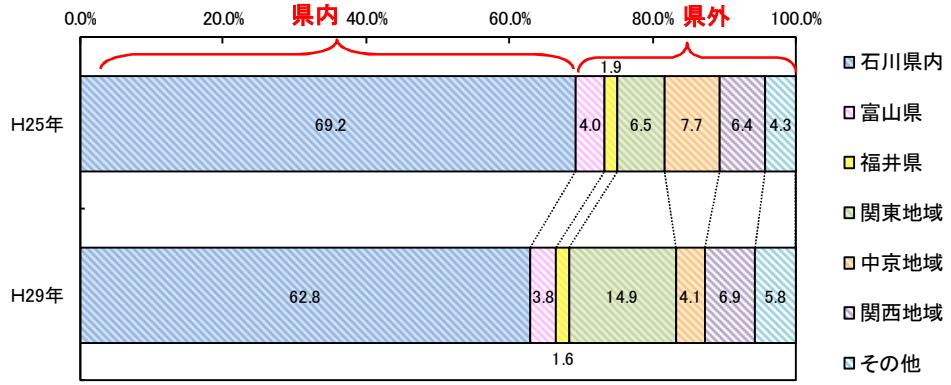


資料：能登町調べ

（６）宿泊施設利用者数の発地別割合

平成 29 年の宿泊施設利用者の発地別割合をみると、石川県内からが 62.8%と最も多いものの、平成 25 年と比べて石川県外から訪れる人が増加しており、特に「関東地域」の割合が大きく増加しています。

宿泊施設利用者の発地別割合の動向



発地別の宿泊施設利用者数

	石川県内	富山県	福井県	関東地域	中京地域	関西地域	その他	計
H25 年	100, 882 (69. 2%)	5, 871 (4. 0%)	2, 790 (1. 9%)	9, 444 (6. 5%)	11, 186 (7. 7%)	9, 316 (6. 4%)	6, 309 (4. 3%)	145, 798 (100. 0%)
H29 年	106, 208 (62. 8%)	6, 434 (3. 8%)	2, 742 (1. 6%)	25, 268 (14. 9%)	6, 984 (4. 1%)	11, 724 (6. 9%)	9, 730 (5. 8%)	169, 090 (100. 0%)

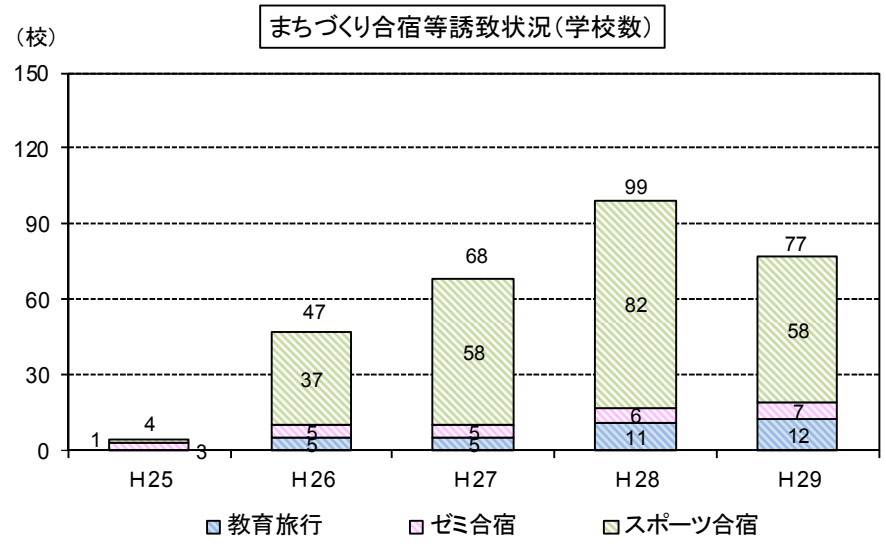
資料：能登町調べ

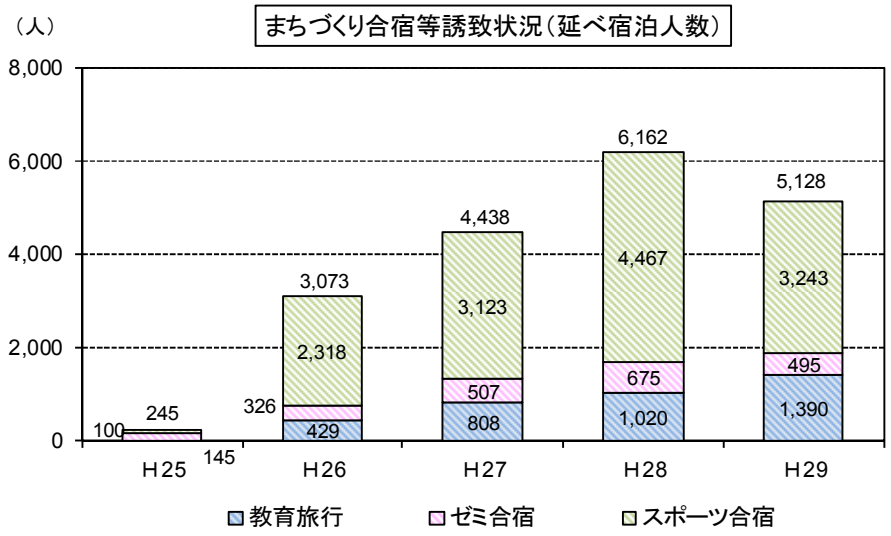
※宿泊施設利用者＝日帰り数＋宿泊者数

（７）まちづくり合宿等誘致状況

平成 29 年のまちづくり合宿等の誘致は、学校数で 77 校、延べ宿泊人数で 5,128 人となっており、テニス等の全国大会誘致などに伴う「スポーツ合宿」が７割程度を占め圧倒的に多く、次いで「教育旅行」となっています。

また、平成 28 年は大会誘致が進み、学校数、延べ宿泊人数ともに多い状況です。



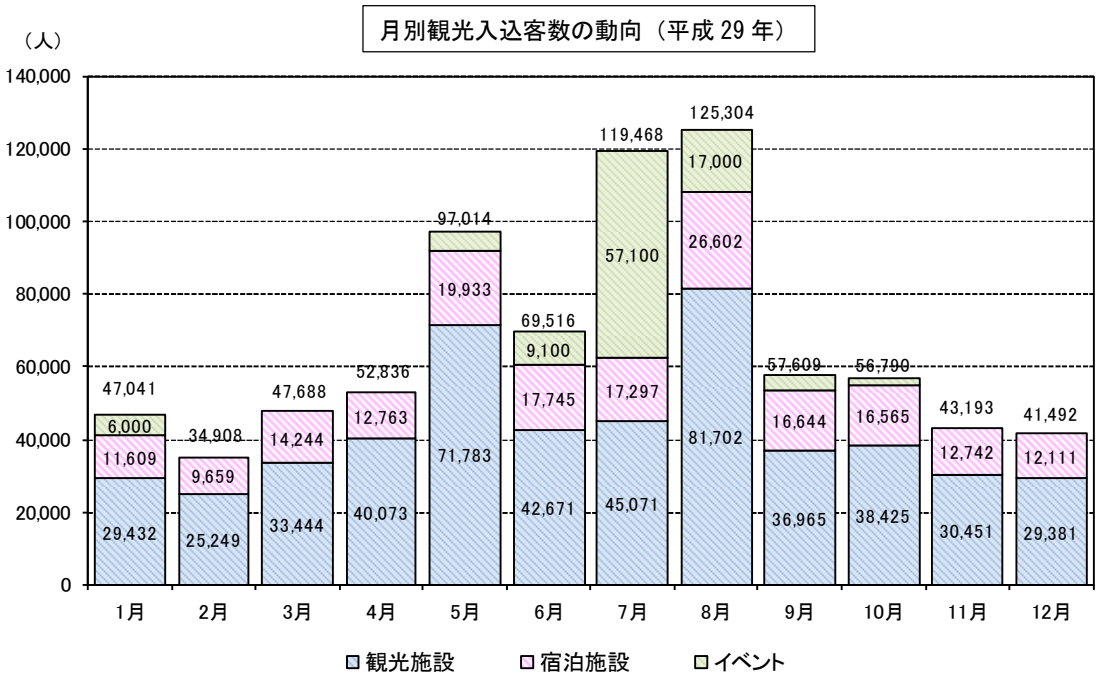


資料：能登町調べ

（８）月別観光入込客数の動向

平成 29 年の月別の観光入込客数をみると、夏休みの８月が 125,304 人で最も多く、次いで「あばれ祭」（50,000 人）が開催される 7 月の入込客数が多くなっています。

月別の観光入込の特徴としては、５月から８月にかけて比較的多く、冬期の入込客数が少ない傾向にあることがうかがえます。

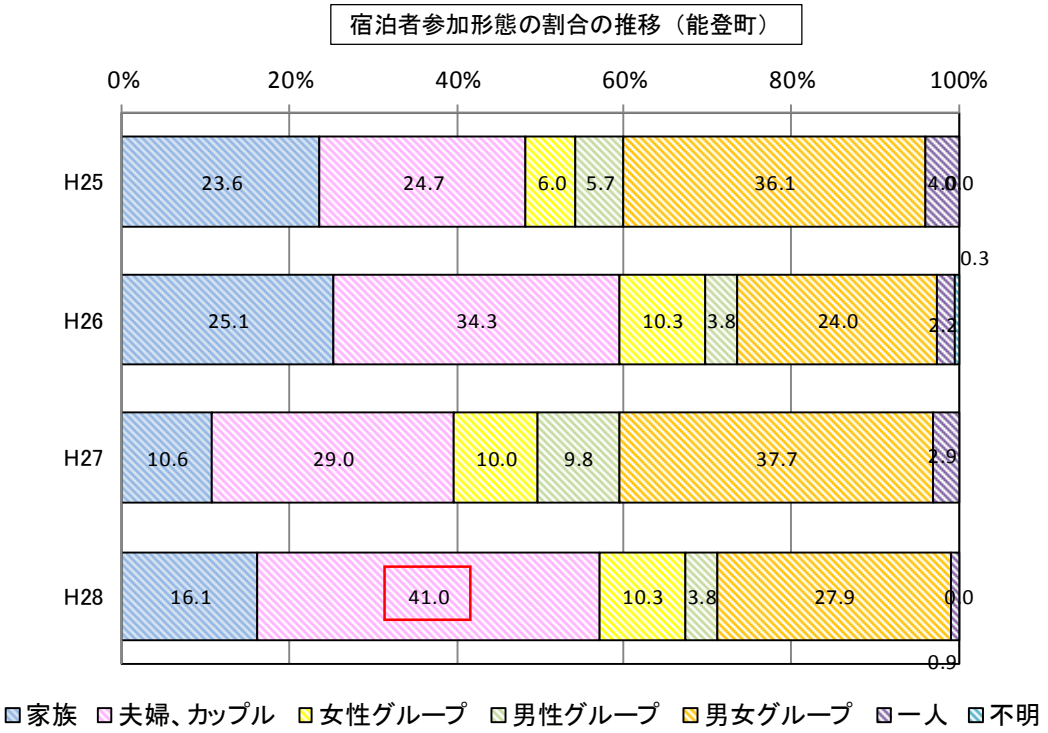


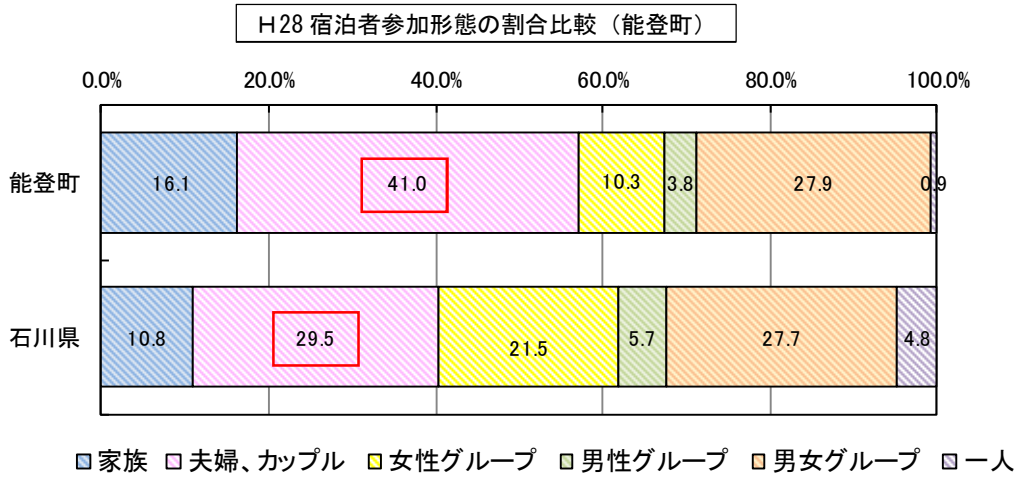
資料：能登町調べ

（９）宿泊者の参加形態

平成 28 年の能登町の参加形態別宿泊者の割合をみると、「夫婦、カップル」が全体の 41%を占め最も多く、平成 25 年と比較しても 16 ポイント増加しています。

また、県平均と比較しても「夫婦、カップル」の割合が高く、「女性グループ」の割合が低いことがうかがえます。





資料：「観光予測プラットフォーム」観光予測プラットフォーム推進協議会

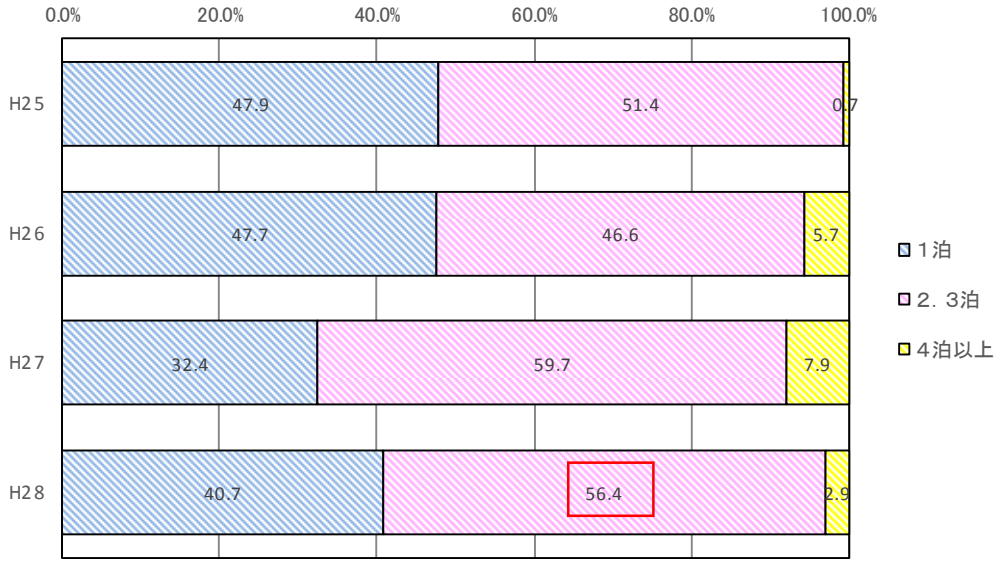
（10）宿泊日数

平成 28 年の本町を訪れた人の旅行における宿泊日数をみると、「２、３泊」が 56.4%を占め最も多く、次いで「１泊」の 40.7%となっており、「４泊以上」は 2.9%にとどまっています。

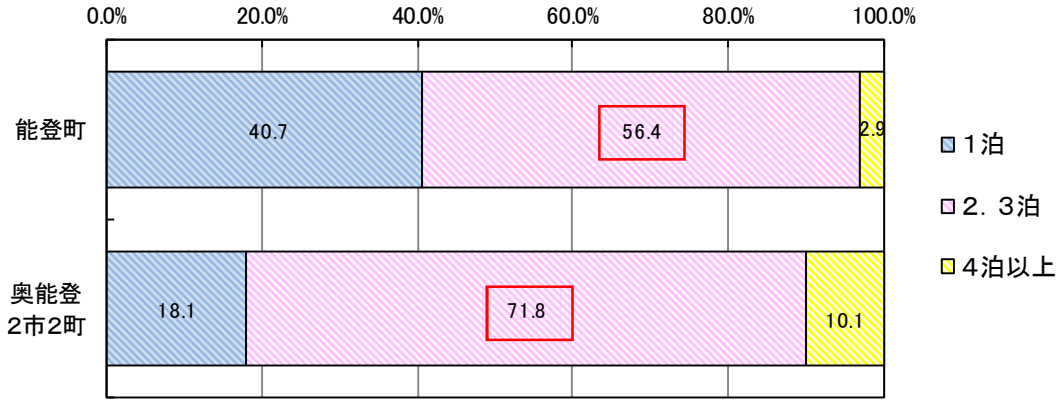
また、奥能登２市２町と比較すると「１泊」の割合が高く、「２、３泊」及び「４泊以上」の割合が低いことがうかがえます。

経年変化をみると、少しずつではあるが「２、３泊」の割合が増えつつあります。

宿泊日数の割合の推移（能登町）



H28 宿泊日数の割合の比較



資料：「観光予測プラットフォーム」観光予測プラットフォーム推進協議会

※宿泊日数は、調査地域を訪れた旅行における宿泊日数であり、調査地域以外の宿泊も含みます。

2－5 経済波及効果

町内の日帰り、宿泊者数と国内旅行消費額より、能登町主要５祭の経済波及効果は以下の通りです。入込客数が多い「あばれ祭」は約 10 億円、「にわか祭」と「ござれ祭」は１億円を超えています。

主要５祭の経済波及効果（平成 29 年）

祭名	経済波及効果	平成 29 年入込客数
あばれ祭	**９億８千万円**	50,000 人
にわか祭	**１億９千万円**	9,500 人
とも旗祭り	**６千万円**	3,000 人
松波人形キリコ祭	**５千万円**	2,500 人
ござれ祭り	**１億２千万円**	6,000 人

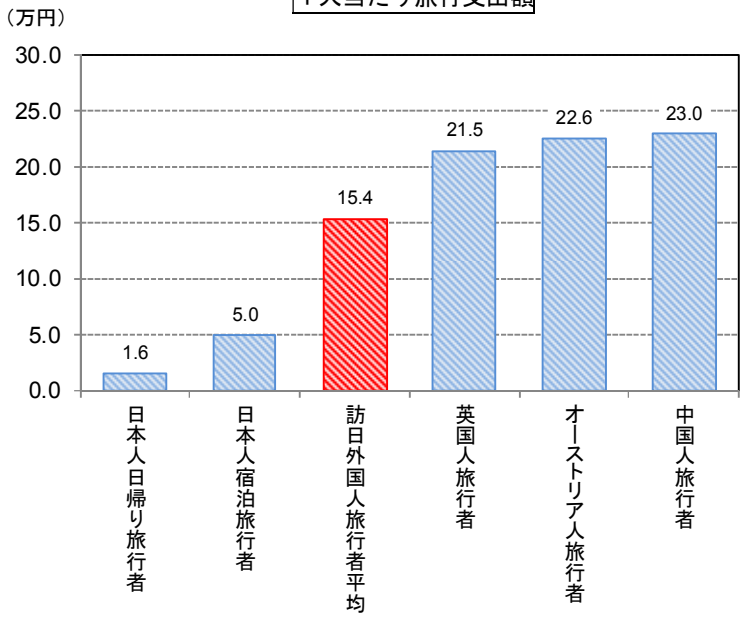
【経済波及効果算出方法】

入込客数から H29 日帰り・宿泊者数比により日帰り客数、宿泊客数を算出し、各々の旅行消費額を乗じることにより算出

経済波及効果＝日帰り客数[1)]×旅行消費額・日帰り旅行[3)]
＋宿泊客数[2)]×旅行消費額・宿泊旅行[4)]

[1)] 日帰り客数…入込客数×日帰り比 88%（H29 能登町調べ）
[2)] 宿泊客数…入込客数×宿泊比 12%（H29 能登町調べ）
[3)] 国内旅行消費額・日帰り旅行…15,526 円（H29 旅行・観光消費動向調査）
[4)] 国内旅行消費額・宿泊旅行…49,732 円（H29 旅行・観光消費動向調査）

１人当たり旅行支出額



資料：H29 年旅行・観光消費動向調査
訪日外国人消費動向調査

２－６ 能登町の観光課題

◎人口減少への対応

能登町は、能登地域の中でも人口減少が著しい地域であり、能登町の人口は、2040年には、人口が１万人を下回り、さらに20年後の2060年には、約4,600人まで減少すると推測されます。このような状況から、町の活力の維持・向上を図ることが重要となっており、定住促進とともに、観光による交流人口の増加によるまちの活性化が求められています。

◎観光資源が不明確

能登町には様々な観光資源が存在するものの、入込客数が多い輪島や和倉温泉などの他の能登地域の観光地と比較すると、能登町から連想する観光資源が不明確です。

そのため、石川県内に訪れても能登町を訪問先として選ばない、能登を訪れた観光客が立ち寄らない、宿泊せずに日帰りで帰るなどの課題が想定されます。個性豊かな能登町の観光魅力が十分発揮されるような対策が必要です。

◎観光入込客数の伸び率鈍化

現在、能登町の観光入込客数は約80万人であり、直近10年の観光入込客数をみると伸び率は鈍化し19%増に留まっています。一方、金沢地域においては、直近10年間で 36%増加しており、訪日外国人をはじめ首都圏から多くの観光客が訪れています。

北陸新幹線金沢開業やのと里山海道無料化の効果を最大限に発揮するためには、県内市町や北陸・中部エリアで連携した取り組みが求められています。

◎まちづくり合宿等の誘致推進

スポーツ合宿や修学旅行誘致で毎年３～６千人が訪れており、また、年間外国人宿泊者数も２千人に達しており、今後もターゲットを絞った誘客促進により、交流人口の拡大に取り組む必要があります。

近年、旅行者の観光ニーズは多様化や個別化が進むとともに、能登固有の美しい風景や豊かな自然、独自の伝統文化への関心は高まりを見せています。特に訪日外国人旅行者や都会に住む人たちなど、ターゲットの旅行ニーズをとらえながら誘客を進めることが求められています。

第3章　観光振興ビジョン

3－1　観光振興テーマと策定フロー

（1）観光振興テーマ

能登町は、内浦特有のリアス式海岸を有し、美しい海岸が幾重にも続いています。このような海に面した立地条件のもと、美しい風景を求めて、多くの人が海に訪れています。また山々の緑が町全体をつつみ、緑豊かな自然を体感できます。世界農業遺産に指定されるように、豊かな自然とともに、古くから続く農村文化が色づき、あえのこと、ヨバレ、キリコ祭りといった独自の伝統文化が今もなお町民の生活に息づいていまます。

これらの能登の魅力、素朴な能登の人々が、ふるさとを求めた旅人と出逢い、交流することで、人口減少の時代の中、まちに賑わいを生み出し活力あるまちづくりを進めます。

そのためには、人と人との「絆づくり」やまちの「顔づくり」を行うとともに、「地域連携」や「誘致戦略」を進めます。

【観光振興テーマ】

人とまち・自然の魅力が出逢い 活力あるまち

絆づくり
【方針１】絆を深める観光交流で将来のまちを支えます

顔づくり
【方針２】ブランド戦略により“顔”のある観光まちづくりを進めます

連携
【方針３】広域連携により　“のと”の周遊観光促進を強化します

戦略
【方針４】まちに魅力を感じるひとを戦略的に誘致します

（２）観光振興ビジョン策定フロー

上位・関連計画

■能登町第二次総合計画（H28 年～H37 年）

＜観光に係る主な施策＞
- 「能登の里山里海」の魅力や資源の利活用
- 広域連携も視野にした観光振興
- 分かりやすい案内サインの充実
- 外国人観光客等の受け入れ体制整備
- 地域イベント等の情報発信の強化

■能登町創生総合戦略（H30.6）
- 将来人口の変化 2040 年（H52）8,896 人（対 2010 年人口比 45.5%）

＜観光に係る 2019 年の数値目標＞
- 町内宿泊客数（年間）→ 101 千人
- 能登町まちづくり合宿等助成金の利用件数→ 4,500 人泊
- 外国人入込客数（年間）→ 4,500 人

■ほっと石川　観光プラン 2016

＜平成 37 年誘客目標＞
- 全国　3,000 万人
- 外国人宿泊客数　100 万人

■平成 29 年度九十九湾観光施設整備基本計画（H29.10）

＜九十九湾観光活性化の基本方針＞
- 能登を訪れる観光客へ能登内浦の魅力を発信
- マリンスポーツ機能の強化によるリピーターの獲得
- 能登内浦観光ルートの形成

観光を取り巻く環境の変化

■国内
- 訪日外国人誘客 2030 年に６千万人目標（政府観光戦略目標 2016 年発表）
- 石川県は全国から注目：「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」１位
- 余暇活動１位「国内旅行」定着
- 体験・コト消費増加：訪日外国人娯楽サービス購入費 1.7 倍（H24→H29）
- 個人旅行化：国内旅行の形態は個人旅行が８割、団体旅行が２割
- 一人旅、夫婦旅増加：同行形態は一人旅 17.2%、夫婦旅 25.7%で上位２位

■県内
- H23：世界農業遺産認定：「能登の里山里海」
- H25：のと里山海道無料化
- H27：能越自動車道全線開通
  北陸新幹線金沢開業：首都圏からの観光客の増加
  日本遺産認定：「灯り舞う半島　能登　熱狂のキリコ祭り」

能登町の現況

■能登町の観光動向

【観光入込客数】
- 直近 10 年（H20～29 年）の伸び率は、県内 19%増、金沢地域 36%増、能登町 19%増
- 外国人宿泊者数は 10 年間で県内及び能登町約３倍の伸び

【宿泊者数】
- 10 年間で約４万人増（57%増）であるが、観光入込客数に比較し少ない（宿泊率約 12%）
- まちづくり合宿等による来訪者数は、３～６千人/年

【観光施設】
- H29 年の観光施設入込客数は約 50 万人（10 年間で約 13 万人増、34%増）
- 観光スポットは多いものの、魅力が活かされていない
- 観光スポットが広域に点在し、町内で連携されていない
- 体験スポットが少ない

【祭り・イベント】
- H29 年の祭り・イベントへの入込客数は約 10 万人（10 年間で 27%増）
- 日帰り客がほとんどで、経済効果は薄い

能登町の観光資源の優位性

【固有の文化・自然景観】
- 「能登の里山里海」の世界農業遺産認定
- 灯り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～の日本遺産認定
- 昔ながらの素朴な風景と温かい人柄
- 日々の生活の営みそのものが観光資源

【食・特産品】
- 四季と風土に育まれた郷土食豊かな食文化、新鮮な山海の幸
- 食文化と発酵食品
- 多彩な二次加工品、魅力ある特産品

能登町の現況課題

◎人口減少への対応

町の人口は、20 年後には約半数となることが推計されており、町の活力の維持・向上を図る上で、観光による交流人口の増加が重要となっています。

◎観光資源が不明確

町には様々な観光資源があるが、能登町から連想する観光資源が不明確であり、個性豊かな能登町の観光魅力が十分発揮されるような対策が必要となっています。

◎観光入込客数の伸び率鈍化

近年の観光入込客数は約 80 万人であり、直近 10 年の観光入込客数の伸び率は鈍化し 19%増で留まっており、対策が必要となっています。（県内 19%、金沢地域 36%増）

◎まちづくり合宿等の誘致推進

スポーツ合宿や修学旅行誘致で毎年３～６千人が訪れており、また、年間外国人宿泊者数も２千人に達しており、今後もターゲットを絞った誘客促進により、交流人口の拡大に取り組む必要があります。

【観光振興テーマ】　人とまち・自然の魅力が出逢い　活力あるまちへ

能登町の観光振興の方針

方針１
絆を深める観光交流で将来のまちを支えます

訪れる人との絆を深める観光交流を促進することにより、まちのファンやリピーターを創出し、地域経済の活性化や移住や定住を推進します。

方針２
ブランド戦略により“顔”のある観光まちづくりを進めます

能登町の観光資源の魅力を伝えるブランド戦略を立案することにより、能登町への更なる誘客を推進します。

方針３
広域連携により“のと”の周遊観光促進を強化します

県内や能登地域を訪れる人にさらに能登町にも訪れてもらうため、県内や能登の周辺市町との連携し周遊観光の促進を強化します。

方針４
まちに魅力を感じるひとを戦略的に誘致します

能登町に魅力を感じる顧客をターゲットとして定めることにより、全国からの積極的な誘客を進めるとともに、顧客満足度を高める取組みを推進します。

３－２　観光振興の方針

方針１　絆を深める観光交流で将来のまちを支えます

観光が産業として注目され始め、地方活性化には欠かせないものとなってきています。特に能登町は、人口が 20 年後には約半数と推計されており、観光による交流人口の増加が重要となっています。訪れる人との絆を深める観光交流を促進することにより、まちのファンやリピーターを創出し、地域経済の活性化や移住や定住を推進します。

肩をあわせてキリコが動くそして、
のとの人になる（能登町移住ガイドブック）

方針２　ブランド戦略により“顔”のある観光まちづくりを進めます

能登町には、350 年間続く宇出津あばれ祭や日本海側最大のイカ水揚げ地として栄えてきた小木のイカなどの様々な観光資源があるものの、その魅力が全国に十分に周知されていないのが現状です。能登町の観光資源について、その魅力を伝えるブランド戦略を立案することにより、能登町への更なる誘客を推進します。

日本百景のひとつ　美しいリアス式海岸

方針３　広域連携により　“のと”の周遊観光促進を強化します

石川県内や能登地域の入込客数は、ここ 10 年間で増加しています。県内や能登地域を訪れる人にさらに能登町にも訪れてもらうため、県内や能登の周辺市町と連携し周遊観光の促進を強化します。

輪島市　白米千枚田

方針４　まちに魅力を感じるひとを戦略的に誘致します

能登町では、まちづくり合宿などのターゲットを絞った誘致を積極的に進めており、年間３～６千人が訪れています。今後も能登町に魅力を感じる顧客をターゲットとして定めることにより、全国からの積極的な誘客を進めるとともに、顧客満足度を高める取り組みを推進します。

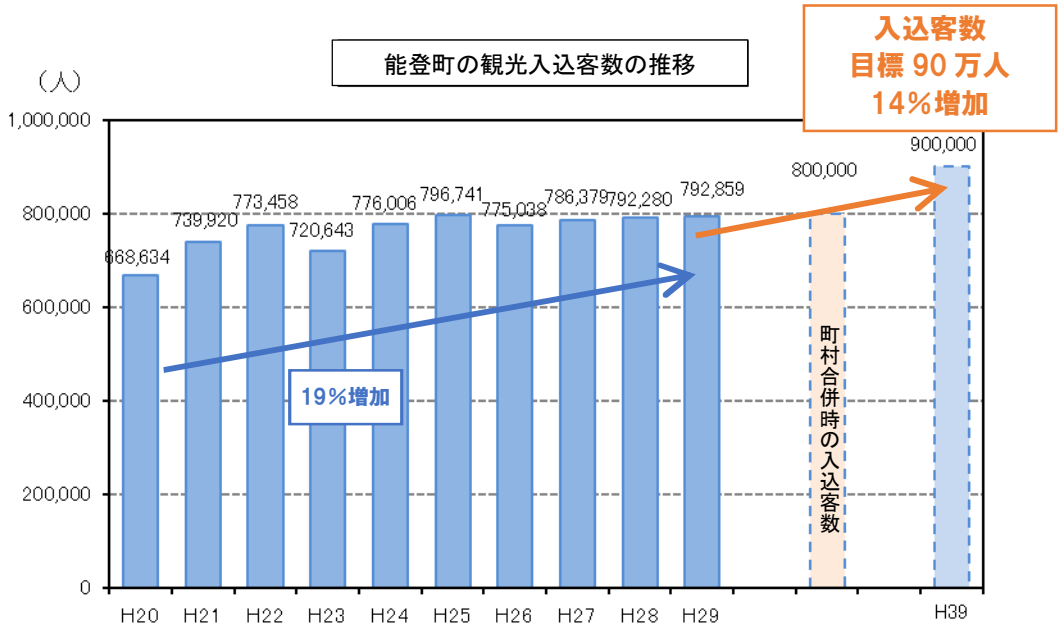
スポーツ合宿

3－3　観光振興ビジョンの目標

能登町観光マスタープランでは、10 年後の能登町観光のあるべき姿を示す数値目標として以下を設定し、観光交流による活力あるまちの実現をめざします。

数値目標

	現況値 （平成 29 年）	→	目標値 （平成 39 年）	関連の深い方針
能登町観光入込客数	**79 万人**	→	**90 万人（14%増）**	方針２ 方針３
宿泊客数	**11 万人**	→	**12 万人（9%増）**	方針１
外国人宿泊客数	**２千人**	→	**３千人**	方針４
旅行満足度	**※H31 にアンケートを実施し把握**	→	**※H31 年度設定**	方針１



第4章　観光振興プラン

4－1　施策の展開

方針１　絆を深める観光交流で将来のまちを支えます	
(1)連泊・リピーターの創出	1 宿泊戦略の強化 2 移住定住施策の展開 3 能登町に関心のある人たちとの交流の促進
(2)体験メニューの創出	1 里山体験メニューの創出 2 里海体験メニューの創出 3 イベント体験メニューの創出
(3)能登町ファンの拡大	1 テーマ性の高い体験プログラムによる誘客促進 2 観光客の声を活かしたおもてなしの向上
方針２　ブランド戦略により“顔”のある観光まちづくりを進めます	
(1)核コンテンツの強化	1 ブランド戦略の立案 2 のと九十九湾観光交流センター(イカの駅)の魅力強化 3 世界農業遺産「能登の里山里海」の魅力強化 4 祭礼の魅力強化
(2)食、宿、観光コンテンツの強化	1 食の強化 2 宿の強化 3 観光コンテンツの強化
(3)観光人材の育成	1 観光客の声を活かしたおもてなしの向上 2 事業者のおもてなし向上 3 町民のおもてなし向上
方針３　広域連携により　“のと”の周遊観光促進を強化します	
(1)市町を超えた連携強化	1 能登半島における連携強化 2 広域関連事業の推進
(2)広域誘客の強化	1 広域周遊観光モデルルート整備促進 2 二次交通の強化
(3)広域誘導の強化	1 のと里山海道等からの誘導強化 2 のと里山空港からの誘導強化 3 能登主要観光地からの誘客強化
方針４　まちに魅力を感じるひとを戦略的に誘致します	
(1)訪日外国人旅行客の誘客推進	1 訪日外国人旅行客向けモデルルートの造成 2 訪日外国人旅行客の受け入れ環境、体制の整備
(2)まちづくり合宿等誘客推進	1 スポーツ合宿による誘客推進 2 教育旅行による誘客推進 3 ゼミ合宿等による誘客推進 4 ターゲットを絞った誘客推進
(3)ニーズに応じた情報提供・発信の強化	1 観光客のニーズや嗜好に応じた情報提供の強化 2 コンシェルジュ機能の強化 3 地域イベントの情報発信強化

4－2【方針1】絆を深める観光交流で将来のまちを支えます

（1）連泊・リピーターの創出

能登町の観光は、日帰り観光客が主体となっており、宿泊観光客の宿泊日数も県平均と比較して「1泊」の割合が高く、連泊する観光客が少ないのが実態です。

能登町の魅力を十分堪能する上で、また、観光交流人口の拡大を図り、将来的な移住定住促進につなげるためには、通過型観光から滞在交流型観光への転換が求められます。

そこで、滞在交流型観光地の形成の一環として、来訪者の連泊を促す仕組みやしかけづくり、リピーターの拡充に向けた取組みを推進していきます。

【 主な施策 】

1　宿泊戦略の強化

〇イベント関連宿泊の推進

里山、里海、イベント体験等で来訪者と地域の交流機会を増やし宿泊増加を推進します。来訪者の多い「あばれ祭り」や「ござれ祭り」、「寒ぶりまつり」、「イカす会」等のイベントの開催日に合わせ、その前後に町内で連泊してもらう観光プランを企画し、各種団体と連携することでイベント関連宿泊者数の増加を図ります。

イベント前後に魅力的な取り組みやツアーを関連団体で実施

宇出津港のと寒ぶりまつり
（1月開催、来場6,000人）

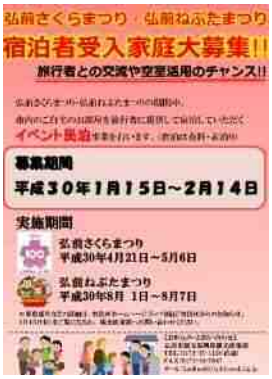
〇連泊強化の取り組み

旅行者が、風光明媚な景色や滋味豊かな郷土料理、温泉、勇壮な祭り、まち歩き等を楽しみながら、能登町の魅力にふれ、ゆったりと過ごせるよう“連泊強化月間”を設定するなど、連泊促進を戦略的に推進します。

連泊強化月間に、その季節にしか出会えない魅力を複合的に発信し連泊を推進

イベント民泊

弘前さくらまつり・ねぶたまつり期間中イベント民泊を実施し、観光消費増加や地域交流の活発化を図る



2　移住定住施策の展開

観光交流人口の拡大から、能登町への移住定住促進に繋げるため、能登町定住促進協議会と連携し、移住定住促進のためのＰＲを推進します。

また、移住希望者に対して、定住前の試行的な取り組みとして地域住民と交流しながら定期的に来町したり、一定期間滞在する「交流型滞在」を推進したりし移住までを支援する取り組みを推進します。

能登町暮らし体験の家では四季を
通じて数回実施を推奨
（２日間～最長１週間）

地域の人たちと祭りやイベントで交流
暮らして楽しむ、様々な体験や勉強の場がある
（出典：新潟県妙高市クラインガルテン HP）

3　能登町に関心のある人たちとの交流の促進

全国の能登町が大好きな人、関心や興味がある人、姉妹都市の方々等に、能登町の観光魅力や旬な情報を定期的に発信し、能登町に訪れるきっかけづくりの拡大を図るとともに、来訪者と地域住民等との交流拡大を推進します。

また、魅力的な体験・滞在プログラムの企画・開発や受入れ体制の充実により、大学ゼミ旅行や企業研修等を誘致し、交流人口の拡大を推進します。

ゼミ合宿
（真脇遺跡公園）

能登山びこ会
奥能登の味覚や特産品の発送と、四季を通じた体験・
イベント等催しのご案内
（出典：黒川温泉セミナーハウスやまびこ HP）

（２）体験メニューの創出

現在の観光に対するニーズは、物見遊山的な観光から参加体験型観光へと変化してきており、旅行者のニーズは多様化しています。外国人観光客においても、観光庁の調査によると、四季の体感や日本の歴史・伝統文化体験、日本の日常生活体験等、体験型の観光に興味を持っていることが示されています。

能登町には、里山・里海体験、風景や歴史の体験など、魅力的な体験メニューが充実しており、ふるさと体験を満喫できるモデルコースも設定されています。

また、里山での暮らしが体験できる農家民宿群も整備されています。

今後も、こうした体験活動資源を十分に活用しながら、来訪者のニーズを満たし、満足度の高い参加体験型観光を提供できるよう、魅力的な体験メニューの創出を図ります。

【 主な施策 】

1　里山体験メニューの創出

能登町には、赤崎いちごやブルーベリー、寒ぶり、きのこ、いしりなど、山海の幸から伝統食まで、能登の里山里海に育まれた特産品が多く存在しています。

この豊かな食材や食文化を活用し、農林業体験をはじめ、郷土料理実習や醗酵食品づくりなど、能登町の食文化に触れ、能登町を味わう各種体験メニューを企画・開発し、誘客促進を図ります。

田植え体験（春蘭の里）

いちご摘み取り体験

2　里海体験メニューの創出

穏やかで美しい海の風景とともに、能登には里海に育まれた希少種を含むたくさんの生き物が生息、生育しています。

スキューバやカヤック、漁業体験など豊かな海と生き物に触れる体験を企画するとともに、継承される伝統漁法などを学び体験できるメニューを開発し誘客促進を図ります。

里海ふれあい体験

九十九湾海中探索

3　イベント体験メニューの創出

旅行者に、地元住民とのふれあいや思い出に残る旅を提供するため、既存のイベントの魅力再考や新たな魅力あるイベント体験メニューを創出し、四季折々に魅力あるイベントを開催することにより、集客や賑わい創出につなげます。

また、祭り・イベントの体験メニューのインストラクター等に、積極的に高齢者を活用し、地域の高齢者の知恵やノウハウ、パワーを観光振興に活用していくことを検討します。

松波人形キリコ祭り

地元ガイドツアー

能登の「ヨバレ」体験
（奥能登　天領庄屋中谷家 HP）

（３）能登町ファンの拡大

能登町に訪れる観光客を維持・増大させるためには、固定的なファンを増やす取り組みも重要です。

能登町の観光認知度は以前と比べて向上し、観光客数も増えてきていますが、固定的な能登町ファンの獲得までには十分に至っていないのが実状です。

そこで、能登町ならではの食や伝統文化、自然に加え、スポーツやアートといった新しい資源等も最大限に活用し、来訪者の満足度向上と滞在時間を拡大することで、「また来たい」と感じる能登町ファンの獲得を目指していきます。

1　テーマ性の高い体験プログラムによる誘客促進

能登町の豊かな自然環境や祭り、民俗文化、多彩な味覚等を素材として、これらを有機的に組み合わせるとともに、メニューの工夫や演出を行うことにより、能登町でしか体感・体験できない魅力的かつ変化に富んだ体験プログラムを企画・開発し、誘客促進を図ります。

テーマ性の高い体験プログラム例

- 里山里海の文化と春を楽しむ旅　～農業、料理体験と語り部～
- 空と畑の星を探す旅　～天体観測とブルーベリー摘み～
- 恋路海岸の絶景とのとイチゴの旅　～摘みたての赤崎イチゴ～
- 里海の絶景とイカを楽しむ旅　～自転車とマリンレジャー～

九十九湾ダイビング

そば打ち体験
（セミナーハウス山びこ）

星の観察会
（星の観察館「満天星」）

いちご摘み取り体験
（赤崎いちご園）

2　観光客の声を活かしたおもてなしの向上

能登町に訪れる人々が快い印象を持ち、繰り返し訪れてもらうためには、観光事業者や地元住民がホスピタリティ（おもてなし）の精神で、観光客を温かく迎え入れることが大切です。

このため、観光客を対象とした「おもてなしアンケート」の実施及びニーズの把握やおもてなし規格認証の取得促進等、観光客のおもてなし評価やニーズを適切に反映させたおもてなしを提供できる体制づくりを推進します。

ラブロ恋路スタッフ

おもてなし規格認証（経済産業省　2016 年～）

4－3【方針2】ブランド戦略により“顔”のある観光まちづくりを進めます

（1）核コンテンツの強化

北陸新幹線金沢開業や連続テレビ小説の舞台地、能登の里山里海の世界農業遺産への認定等も相まって、観光地としての能登の認知度は飛躍的に向上し、現在、多くの観光客が訪れています。

能登町にも、他市町に引けを取らない魅力ある観光資源があり、それらを求めて多くの観光客が訪れていますが、輪島朝市や千枚田、揚げ浜塩田等と比べて知名度がやや劣っており、また、“顔”となるコンテンツがないのが実状です。

このため、観光吸引力が十分に発揮されておらず、通過型観光の一因ともなっています。

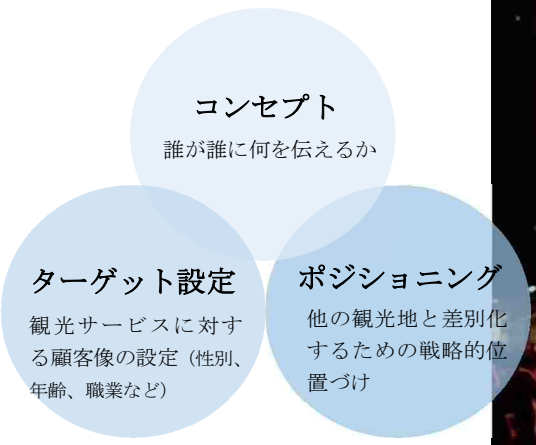
そこで、人々を引きつける能登町にしかないオンリーワンの観光資源を創出し、他地域との差別化を図るとともに、積極的に情報発信し、観光誘客に取り組みます。

1　ブランド戦略の立案

加賀地域や金沢地域を訪れた観光客が能登町にも足を延ばし、滞在を楽しんでいただくためには、能登町を連想させる核コンテンツの創出が必要であり、その一環として能登町のブランド力を高めるため、観光関係者（団体）からなる専門組織を立ち上げ、ブランド戦略を展開していきます。

ブランド戦略を展開するにあたっては、国内や海外などの誘致先、個人や家族連れなどのターゲットとなる観光客を定め、ＰＲを進めていきます。

ブランド戦略イメージ



観光関係者専門組織による観光面的活性化戦略検討項目

地域経済活性化テーマ	テーマは明確か

キープレイヤー（事業者等）	キープレイヤー・キーパーソンは特定されているか

観光面的活性化戦略	シンボル	「地域ならでは」の目玉観光資源	「地域ならでは」のシンボルとその価値・ストーリーは明確か
		目玉観光資源の価値・ストーリー	
		目玉観光資源のシンボル化方法	
	ターゲット観光客（メイン）		ターゲット観光客は明確か
	ターゲット観光客（サブ）		
	基本コンセプトと基本周遊プラン		ターゲットにとっての理想的な周遊プランは何か 客単価をあげるための事業や商品は不足していないか
	多層的滞在環境	交　　通	
		宿　　泊	
		飲　　食	
		物　　販	
		アクティビティ	

※地域活性化支援機構資料より抜粋

2　のと九十九湾観光交流センター（イカの駅）の魅力強化

整備が進められている「のと九十九湾観光交流センター（イカの駅）」について、シーカヤックやサップ、観光遊覧船の再運航等のマリンレジャーやイカ漁を活かした観光交流の拠点施設と位置づけ、能登町をイメージさせる新たな観光コンテンツとして付加価値を高めていきます。

また、食としての「イカ」のブランド化を推進します。

ブランディング例
ターゲット：都会のスキューバ好きでイカが好きな 40 歳代夫婦＋子供
代表商品：海の体験＋自然景観＋海の幸

イカ釣り体験

船凍イカ

3　世界農業遺産「能登の里山里海」の魅力強化

波静かな内浦と緑豊かな山々に囲まれた能登町には、懐かしさが漂う里山里海の景観や自然と調和しながら土地に根差した人々のなりわいや暮らしが今も息づいています。

世界農業遺産に認定されているこの里山里海の魅力を一層磨き、その輝きを全国に発信するとともに、ここにしかない観光コンテンツの構築を推進します。

ブランディング例
ターゲット：日本文化に興味のある都会在住者、外国人　個人客
代表商品：能登の里山景観＋集落や海での人の営み、文化を体験、見学

九十九湾

農村風景

4　祭礼の魅力強化

能登町には、いにしえより絶えることなく継承されてきた勇壮な祭りや「あえのこと」などの民俗文化が今も大切に受け継がれており、町民共有の大切な財産であるとともに、多くの観光客が見学に訪れるなど、誘客できる非常に強いコンテンツとなっています。

このため、祭りや民俗文化の維持・継承に努めるとともに、祭礼時のみならず、いつ訪れても祭礼の雰囲気や魅力を体感できる環境づくりを推進し、能登町の祭礼の魅力強化を図ります。

ブランディング例

ターゲット：祭り好きの都会・地方の家族、日本文化に興味のある外国人

代表商品：数日～1 週間滞在型の祭りホストファミリー＋自然体験

きりこ祭り（宇出津）

あえのこと

（２）食、宿、観光コンテンツの強化

旅行の目的の上位には、常に上位に「食」が挙げられているほか、旅行の良し悪しを決める要素として「宿」も重要なポイントになっています。

また、旅行先として選ばれるためには、「食」、「宿」以外の観光コンテンツの充実も必要であり、十分に来訪者を満足させられる観光資源になるよう、既存観光資源のブラッシュアップを図る必要があります。

能登町には、自然や歴史・文化、食などに関する地域資源が点在しているものの、観光資源として十分に活用されていないほか、演出の不足や資源周辺の環境整備が不十分であり、せっかくの資源が有効活用されていない例もみられます。

そこで、「食」、「宿」の魅力化を図るとともに、付加価値の高い観光コンテンツを創出し、能登町観光全体の底上げを図ります。

1　食の強化

「食」は旅の醍醐味であり、その土地で味わう味覚は心に強く残るものであり、四季を通じた「食」は誘客の重要な要素のひとつです。

能登町の多彩な味覚を観光資源として活用するため、四季の新鮮な食材を活用した名物づくりや地元産食材による最上の郷土料理の開発、フードメニューの充実等、能登町の「食」の強化を推進します。また、旅行会社と連携するなど能登町の「食」と連携した観光ルートの確立を進めます。

こんかいわし

能登丼

囲炉裏で食べる郷土料理

2　宿の強化

旅行者の多様な宿泊ニーズに対応し、宿泊の魅力向上を図るため、宿泊施設の整備充実や食・料理でのおもてなし向上を推進するとともに、宿泊客の増加を目指し、近隣市町と連携した連泊プランの企画・開発や町内での連泊コースの設定など、多彩な宿泊バリエーションの創出を図ります。

囲炉裏と漆器を楽しむ農家民

景色と温泉を楽しめるラグジュアリーな客室

3　観光コンテンツの強化

旅行ニーズの多様化に対応するためにも、豊かな地域資源を観光コンテンツとして一つひとつしっかりと磨き上げ、質的向上を図るとともに、観光コンテンツと他分野の有機的連携による旅行商品化を推進します。

九十九湾海中公園

ぶなの森

（３）観光人材の育成

多くの観光客に何度でも訪れていただくためには、観光資源の魅力化とともに、観光事業者や地域住民等のホスピタリティ（もてなしの心）を醸成し、町全体で来訪者を温かく迎え入れる土壌づくりが求められます。

「能登はやさしや土までも」といわれるように、能登には素朴で優しい人情が今も息づいていますが、さらに町全体で来訪者をもてなす観光意識の向上を図り、ホスピタリティに満ちた能登町観光を創造していくことが求められます。

そこで、来訪者のニーズの把握やおもてなし講座の開催等により、町民のホスピタリティ意識の高揚を図るとともに、ホスピタリティにあふれた能登町観光を支える担い手づくりを推進します。

1　観光客の声を活かしたおもてなしの向上

お客様アンケートによる観光客の声を観光業界全体で共有し、具体的な改善、おもてなしの向上につなげ、観光客の満足度向上を図ります。

郷土料理のおもてなし

2　事業者のおもてなし向上

ホテル、旅館、飲食店、観光施設等の観光関連事業者の従業員を対象とした研修会を開催し、事業者のおもてなし力の向上を図ります。

3　町民のおもてなし向上

観光交流によるまちづくりを見据え、町民を対象とした研修会を開催し、民泊の受入れや日常生活における町民のおもてなしの意識の醸成に一層努めます。

特に、能登の里山里海は、山と海に育まれた日常生活そのものに希少性があり、観光で訪れる人々に文化を伝えることが重要であり、その意義について普及啓発に努めます。

市民研修会イメージ
（出典：鹿児島純心女子短期大学 HP）

4－4【方針3】広域連携により“のと”の周遊観光促進を強化します

（1）市町を超えた連携強化

交通インフラ整備や情報通信ツールの発展等により観光客の行動範囲は拡大傾向にあり、また、旅行ニーズも多様化しているなかで、こうした観光需要に的確に対応していくためには、市町の枠を越えた広域観光の展開が求められます。

また、観光客にとって“能登”といえば能登半島のイメージが強いことからも、能登地域の各市町が一体となって観光振興に取り組むことが求められます。

能登地域は、観光スポットの宝庫であり、のと里山海道の無料化や能越自動車道等の整備に伴い、広域・周遊観光ルートも形成されています。

能登町においては、今後も近隣市町との連携を強化し、広域観光による誘客促進に取り組みます。

1　能登半島における連携強化

能登地域の各市町や石川県観光連盟、能登半島広域観光協会等の関係機関との連携強化を図り、一体となって能登半島の観光魅力づくりに取り組みます。

また、能登地域に点在する観光スポットを安全・快適に周遊できる環境づくりを推進し、能登地域全体でさらなる誘客促進に取り組みます。

揚げ浜塩田

千枚田

2　広域関連事業の推進

平成 30 年は、奈良時代の「能登国」立国から 1300 年にあたることから、県及び能登地域の９市町が連携・協同して情報発信を行う記念事業を推進しています。北陸・中部エリアや県レベルで連携しながら、能登地域の各市町が一体となって、能登地域をＰＲするイベントや連携事業を積極的に推進します。

能登立国 1300 年のとふるさと博ＨＰ

（２）広域誘客の強化

のと里山空港の開港や北陸新幹線金沢開業、能越自動車道の開通等により、能登地域がますます身近になり、県外から多くの観光客が能登地域に訪れています。能登地域に訪れる観光客のうち、６割近くが県外客であり、そのうち２割弱が首都圏からの観光客が占めています。

今後も広域交通網の整備に伴う効果を最大限に発揮させるためにも、移動手段や周遊コースの整備等、広域誘客の基盤整備を推進していく必要があります。

今後は、こうした基盤整備とともに、地理的優位性や多彩な観光資源を活かしながら、外国人の誘客も含め、広域誘客を強力に推進していきます。

1　広域周遊観光モデルルート整備促進

能登地域に点在する豊かな歴史・文化遺産や変化に富んだ自然景観、山海の幸、体験スポット等の多彩な観光資源を広域的につなぎ、テーマ性・ストーリー性を持った魅力ある広域周遊観光モデルルートの整備を図ります。

のと広域モデルプラン

＜飛行機利用の場合＞　アクティブ家族ドライブプラン・２泊３日

のと里山空港着
～レンタカー

見附島、恋路海岸、
赤崎いちご狩り、能登丼

九十九湾
スキューバダイビング

能登町
旅館泊

輪島朝市、千枚田、
塩づくり体験（塩田村）、千里浜

金箔貼り体験、和菓子作り体験、21 世紀美術館
金沢泊

小松空港

＜新幹線利用の場合＞　神社ガール、発酵文化の旅・２泊３日

金沢駅着
金沢寺社巡り
大野醤油蔵見学

七尾線　和倉泊
のと里山里海号
穴水駅よりレンタカー

能登町
聖地巡盃めぐり、お酒試飲会、酒蔵見学、恋路海岸

季節の神事見学
（あえのこと）など
能登町旅館泊

輪島朝市、千枚田
穴水駅→金沢駅発

＜自家用車利用の場合＞ 里山里海世界遺産体感の旅・３泊４日

白川郷合掌造り集落
合掌造り民家園、
わら細工体験
金沢泊

写真提供：岐阜県白川村役場

近江町市場、東茶屋街
芸妓文化体験
和倉泊

農村体験
春蘭泊

九十九湾内クルーズ
里海ふれあい体験

のとキリシマツツジオープンガーデン

４月下旬～５月中旬の開花時期に奥能登地域を中心として個人のお庭などを公開しています。

2　二次交通の強化

広域的に移動する観光客の利便性向上のため、空港、鉄道駅等の交通拠点からレンタカーや路線バス、タクシーを利用して、観光客が観光スポットに容易にアクセスできるよう、二次交通の強化を推進します。

鉄道のない能登町では、２次交通としてレンタカーやタクシーが主流です。レンタカーと組み合わせたお得なパッケージ商品の開発や助成、レンタル手続きの簡易化などレンタカーでのアクセス向上を図るとともに、ふるさとタクシーのＰＲ、利用促進を図ります。

能登町観光誘客促進宿泊助成金（レンタカー利用者）

項　目	内　容
導入	平成 27 年 4 月
対象	レンタカーを使用して町内宿泊施設に宿泊された方
助成金額	1 台当たり 2,000 円

レンタカー宿泊助成金チラシ

ふるさとタクシーＰＲチラシ

ふるさとタクシー

（３）広域誘導の強化

北陸新幹線金沢開業以降、多くの観光客が県内に訪れていますが、能登地域においては、金沢市に集中する観光客をいかに能登に誘導するかが課題となっています。

また、能登町においては、多彩で魅力的な観光スポットがあるものの、知名度やブランド力にやや劣るため、観光吸引力が十分に発揮されていない現状にあります。

このため、のと里山空港や北陸新幹線を利用して訪れる観光客がスムーズに能登町の観光スポットにアクセスできる環境づくりや観光客が能登町に足を運びたくなるようなしかけづくりを推進する必要があります。

そこで、近隣市町や公共交通機関等とも連携し、広域誘導の強化に向けた取り組みを推進していきます。

1　のと里山海道等からの誘導強化（わかりやすい案内サインの充実）

北陸新幹線やのと里山海道、能越自動車道等の広域交通網を利用して訪れる観光客を適切に町内の観光スポットへ誘導するため、珠洲道路を主体に、能登町の観光スポット等を表示した統一的でわかりやすい観光案内サインの整備を推進します。

観光案内サイン例

2　のと里山空港からの誘導強化

のと里山空港からの誘客促進を図るため、航空事業者と連携し、飛行機利用者をターゲットとした小松空港、のと里山空港インアウトプランの企画・開発や航空事業者及び旅行会社とタイアップした往復割引、宿泊や送迎付きプランの企画・開発を推進し、同プランのＰＲと利用促進を図ります。

のと里山空港

3　能登主要観光地からの誘客強化

能登地域の主要観光スポットから能登町への誘客を強化し、能登町の観光入込客数の増加を図るため、よくばり奥能登観光プランの紹介や主要観光地からのオプショナルツアーの企画・開発など、観光事業者等と連携した誘客促進を図ります。

能登地域の施設利用者数トップ５

	観光地	H29 利用者数
1 位	気多大社	837 千人/年
2 位	千里浜	799 千人/年
3 位	能登食祭市場	785 千人/年
4 位	和倉温泉	778 千人/年
5 位	輪島朝市	635 千人/年

資料：「平成 29 年統計からみた石川県の観光」石川県

４－５【方針４】まちに魅力を感じるひとを戦略的に誘致します

（１）訪日外国人旅行客の誘客推進

観光立国を目指すわが国は、現在、外国人旅行者が大幅に増加しており、景気へのプラス効果や地方経済の活性化等に寄与しています。石川県においても外国人宿泊客数が大きく増加し、４年連続で過去最高を記録しています。

能登町にも多くの外国人旅行者が来訪し、特にキリコ祭りや里山里海文化への関心や興味が深く、重要な客層の一つになりつつあります。

町では、多言語の観光パンフレットの作成等受入れ環境の整備を進めていますが、訪日外国人の誘客体制はまだまだ不十分であることから、外国人旅行者が安心して能登町観光を楽しむことができるよう、外国人旅行者のニーズにも対応した受入れ環境づくりを推進します。

1　訪日外国人旅行客向けモデルルートの造成

訪日外国人の旅行ニーズに対応し、主要観光スポット等をネットワークとしたモデルコースの造成や訪日外国人向けの体験ツアーを企画するとともに、広く国内外にＰＲし、誘客促進に努めます。

観光庁外国人向け周遊ルート認定　「縁の道～山陰～」
モデルコース名：「日本の原風景（世界遺産・日本遺産見聞録）」

2　訪日外国人旅行客の受け入れ環境、体制の整備

訪日外国人の誘客促進を図るため、パンフレット、散策マップ等の多言語化や観光ポータルサイトの多言語化、多言語対応案内板の整備、観光案内所で英語を含む多言語での対応、公衆無線ＬＡＮ等の整備を図り、外国人観光客や宿泊客の利便性向上に努めます。

多言語化については、既存パンフレットやサイトから進め、新規施策についても随時取り組みを進めます。ＡＲ（拡張現実、Augmented Reality）を活用し、観光者等がスマートフォンで手軽に観光情報等が入手できる環境整備を進めることで、リーフレットやコンテンツの多言語化を進めます。

外国人向け無料公衆無線 LAN 整備

能登みこーずＡＲ

能登町多言語観光パンフレット

多言語による展示物の説明

能登町観光ＡＲ
スマート観光プロジェクト案内チラシ

（２）まちづくり合宿等の誘客推進

少子高齢化や地域間競争、地域格差の拡大等、地域を取り巻く環境が大きく変化しているなかで、能登町のさらなる観光振興と地域活性化を図っていくためには、新たな観光スタイルの展開が必要です。

能登町には、テニスコートや陸上競技場、体育館等良質なスポーツ施設をはじめ、豊かな自然環境、温泉、新鮮な山海の幸等の地域資源が豊富であり、旅館、公共の宿等の宿泊施設も充実しています。

このような恵まれた環境を活かし、能登町では、スポーツ合宿や大学のゼミ合宿、教育旅行の誘致を推進してきており、誘致実績も伸びてきています。

しかし一方で、民宿等の宿泊施設の減少により、宿泊需要に十分対応しきれない面も見受けられ、宿泊の十分な受け皿づくりが課題となっています。

そこで、十分な受入れ態勢の整備・確保を図り、スポーツ合宿やゼミ合宿、教育旅行等の積極的な誘致を推進し、併せて観光誘客につなげていきます。

1　スポーツ合宿による誘客推進

充実したスポーツ施設や豊かな自然環境、美味しい山海の幸等を活用し、各種スポーツ合宿の誘致を推進するとともに、スポーツ合宿等で一度訪れた方がリピーターとなっていただけるよう積極的に誘客を図ります。

大会後に家族と観光を楽しむなど、アフターコンベンションとして楽しめる観光オプショナルツアーの造成や祭り等のイベントとスポーツ大会の融合による連泊推進を促進します。

平成 29 年度　スポーツ合宿の誘致状況

対　象	合宿件数	利用者数	合宿件数内訳	
小学生	24 件	505 人 学生：469 人 引率：36 人	・ｿﾌﾄﾃﾆｽ　14 ・ﾃﾆｽ　2 ・ｻｯｶｰ　2	・野球　4 ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ　1 ・ﾊﾞﾚｴ　1
中学生	6 件	1905 人 学生：180 人 引率：10 人	・ｻｯｶｰ　2 ・ｿﾌﾄﾃﾆｽ　3	・ﾃﾆｽ　1
高校生	20 件	6375 人 学生：603 人 引率：34 人	・ｻｯｶｰ　4 ・ｿﾌﾄﾃﾆｽ　9 ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ　5	・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ　1 ・ﾃﾆｽ　1
大学生	8 件	4, 455 人 学生：444 人 引率：1 人	・ｿﾌﾄﾃﾆｽ　2 ・ﾃﾆｽ　2	・野球　1 ・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ　3
合　計	58 件	1, 7775 人 学生：1, 692 人 引率：80 人	・ｿﾌﾄﾃﾆｽ　28 ・ｻｯｶｰ　8 ・ﾃﾆｽ　6 ・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ　6	・野球　5 ・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ　3 ・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ　1 ・ﾊﾞﾚｴ　1

2　教育旅行による誘客推進

能登町の自然環境や歴史・文化等を体験フィールドとし、教育旅行向けの食事メニューの充実や体験学習プログラムの拡充、民泊を活用した受入態勢の整備により、教育旅行の誘致を推進します。

また、教育旅行で訪れた児童生徒が能登町のファンになり、大人になって再訪してもらえるよう、旅行満足度の向上に努めます。

平成 29 年度　教育旅行の誘致状況

教育旅行件数	利用者数	教育旅行件数内訳
12 件	1,025 人 学生：990 人 引率：35 人	・県外修学旅行（6 件） ・イタリア食科学大学（1 件） ・県内小学校（4 件） ・県内高等学校（1 件）

稲刈り

飛び込み体験

3　ゼミ合宿等による誘客推進

能登町の自然、歴史・文化の豊かさ等の強みを活かし、大学のゼミ、研究フィールドの適地であることを広くＰＲし、ゼミ合宿等の誘致を推進します。

また、観光閑散期における合宿誘致や大学側の個別ニーズにきめ細かに対応するため、コーディネート窓口の設置を図ります。

さらに、大学ゼミ合宿誘致のノウハウを活かし、企業研修の誘致につなげます。

表　平成 29 年度　ゼミ合宿の誘致状況

ゼミ合宿件数	利用者数	ゼミ合宿件数内訳
7 件	278 人 学生：269 人 引率：9	金沢美術工芸大学、星城大学 金沢大学、近畿大学、東海大学 龍谷大学

ゼミ合宿の様子

ブナ林

ワーケーション取り組み事例（和歌山県）

和歌山県から休暇と仕事を両立する新しいワークスタイルを発信

●IT/通信系企業（役員）のスケジュール例

	1日目（5月14日）	2日目（5月15日）	3日目（5月16日）
朝	移動（羽田-関空） 到着	宿泊施設内で アプリ開発のハッカソン	千畳敷で観光 移動 南方熊楠記念館 移動 三段壁洞窟で記念撮影
昼	岡山からの車組と合流 移動 関空から白浜へ	昼食：海鮮丼	昼食 地元カフェでリモートワーク
夕	とれとれ市場で買い物 夕食 白浜温泉後、円月島へ 崎の湯　入浴	アプリ開発のハッカソン	帰宅
夜	宿泊施設到着	アプリ開発のハッカソン 完成 夕食のため移動 長久酒場で宴会 和歌山ラーメンで締め	

ワーケーション
仕事（Work）と休暇（Vacation）を組み合わせた造語で、リゾート地や地方等の環境の良いところで、テレワークの活用等により働きながら休暇や地域との協働等を行うことを目指す。

4　ターゲットを絞った誘客推進

家族旅、女子旅、男子旅など、特定の世代や旅行形態等にターゲットを絞ったモデルコースを提案し誘客を推進します。

（３）ニーズに応じた情報提供・発信の強化

現在は、生活のあらゆる面で情報通信網が発達しており、観光面においても、ガイドブックや観光パンフレット等による情報では満足できず、現地で「旬」の情報やリアルタイム情報を得ながら、その時々の楽しみを最大限に高めていくといったニーズが強まっています。

能登地域では、観光パンフレットや観光資源の情報が市町別、多種類の構成になっており、統一されておらず、半島周遊に向け、観光客にとって便利な資料が少ない状況にあります。

国内外からより多くの観光客を誘致するためにも、「観たい」、「食べたい」といった観光客の要求にスムーズに情報を提供することが求められます。

そこで、観光客のニーズを探り、観光客の動態・ニーズに即応した情報や旬の情報提供に努めるとともに、情報発信の強化を推進します。

1　観光客のニーズや嗜好に応じた情報提供の強化

観光客のニーズや嗜好の多様化に応じた情報を提供できるよう、観光施設、食事処、宿泊施設を選定し、旅行の行程を提案できる機能を備えた観光ポータルサイトの作成等、情報提供の強化を図ります。また地域が一体となり、観光や宿泊、食事情報の発信を行うことにより、情報提供の強化を行います。

また、能登町を広くＰＲするため、観光ポータルサイトの充実を図るとともに、自サイトを上位表示するため取り組み（ＳＥＯ対策）を行うなど、旅行ニーズをとらえるための対策を推進します。

飯山旅々　（一社）信州いいやま観光局
飯山市全域をカバーする豊富な着地型旅行商品で対応（総プラン数 53）
テーマ（目的）×旅程×日時×エリア別の検索で自分スタイルの旅を提案

2　コンシェルジュ機能の強化

観光ポータルサイトだけではなく、町内観光窓口において、ニーズに応じた町内観光周遊ルート等を紹介するコンシェルジュ機能の強化を図ります。

能登観光情報ステーション　たびスタ

3　地域イベントの情報発信強化

各種のイベント情報について、町のホームページやＳＮＳをはじめとして、空港、道の駅桜峠等交通結節点や観光案内所等での情報発信など、効果的に情報を発信することにより、誘客の相乗効果を図ります。

道の駅桜峠

第5章　推進体制

5－1　役割の明確化

観光施策の推進に当たっては、町をはじめ町民や観光団体、事業者等がそれぞれの役割を認識し、相互に連携・協力・補完しながら推進することとし、各団体等の役割は、概ね次のとおりとします。

（1）町の役割

全町での観光プロモーション活動、観光イベントの開催、新たな観光素材の発掘など観光協会と連携し、本プランの目標達成に向け様々な施策を推進します。

また、地域の観光施設・インフラの整備、観光情報の発信など、地域の観光振興の牽引役として観光振興に関する施策をハード・ソフト両面から推進します。

（2）観光協会等の役割

地域の観光振興を担う団体として、町、観光関係事業者と広く連携・協力をして地域の観光資源の発掘、磨き上げや観光客のおもてなし向上、観光誘客イベントの実施等に取り組みます。

（3）観光関係事業者の役割

自らが観光振興の第一線に立ちお客様を迎える立場にあることを深く自覚し、一人ひとりのお客様から満足頂くことを目指しおもてなしを心がけるとともに、町、観光団体等と連携・協力し、観光振興施策に積極的に参画します。

（4）商工会

観光商品・特産品の開発や販売、プロモーション活動を行うとともに、祭り・イベントの企画・開催等を通して、誘客促進や観光による地域活性化に取り組みます。

（5）町民の役割

訪れる人々を温かく迎えるおもてなしを心掛け、町民の財産である地域の自然や文化を大切にし、自らも心と体の健康増進のため積極的に観光リクリエーションを楽しむとともに、人をつなぎ地域をつなぐまちづくりに積極的に参加します。

（6）ボランティア

常におもてなしの心を持ち、来訪者との積極的な観光交流を推進するとともに、観光ボランティアガイドや体験活動のインストラクター等を通して、能登町の観光魅力を発信していきます。

5－2　町における推進体制

本プランの目標達成に向けては、本町の観光施策を担うふるさと振興課が主体となり、「能登町総合計画」の進行・管理を担う企画財政課と連携を図りながら、観光振興施策を積極的に展開していきます。

また、イカの駅等の具体的な観光施設整備については、建設課等関連部署とも連携を強化し、一体となって取り組みを進めます。